

議第 2 号

池田都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について

平成28年(2016年) 2 月 2 日提出
長野県都市計画審議会長

27都第410号
平成28年(2016年) 1 月19日

長野県都市計画審議会長 様

長 野 県 知 事

池田都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について

このことについて、都市計画法第21条第 2 項の規定において準用する同法第18条第 1 項の規定により、次のように審議会に付議します。

池田都市計画

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

(案)

長野県

変更理由書

「池田都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」は、平成 16 年 3 月の策定以降、約 10 年が経過していますが、その後の社会経済状況が変化しているとともに、池田都市計画区域が含まれる大北圏域全体の将来を見据えた広域的な観点からの見直しが必要となっています。

こうしたことから、平成 15 年に策定した「大北圏域都市計画マスタープラン」及び平成 21 年度に実施した都市計画法第 6 条の規定に基づく「都市計画に関する基礎調査」の結果等を踏まえ、当該都市の発展の動向、当該都市計画区域における人口、産業の現状及び将来の見通し等を勘案し、主要な土地利用、都市施設、市街地再開発事業等についておおむねの配置、規模等を示し、一体の都市として整備、開発及び保全を図るため、変更するものです。

目 次

池田都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更.....	1
1 大北圏域の現状と課題.....	1
(1) 圏域の現状	1
(2) 大北圏域の現在の都市構造.....	4
大北圏域現況構造図	5
(3) 圏域の主要課題	6
2 大北圏域の都市計画の目標.....	8
(1) 圏域の基本理念.....	8
(2) 圏域の将来都市構造.....	10
3 池田都市計画区域の都市計画の目標.....	13
(1) 都市計画区域の現状と課題.....	13
(2) 都市計画区域の範囲と目標年次.....	13
(3) 都市づくりの基本理念.....	13
(4) 地域毎の市街地像.....	15
4 区域区分の決定の有無及び区域区分の定める際の方針.....	18
(1) 区域区分の決定の有無.....	18
(2) 区域区分の方針.....	19
5 主要な都市計画の決定の方針.....	20
(1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針.....	20
(2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針.....	23
(3) 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針.....	26
都市施設整備方針図（池田都市計画区域）.....	26

池田都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更

池田都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を次のように変更する。

1 大北圏域の現状と課題

(1) 圏域の現状

大北圏域は長野県の北西に位置し、大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村の5市町村からなる。圏域西部には雄大な北アルプスがそびえ、その山麓から平坦部にかけて水田が広がる水と緑豊かな圏域である。夏は涼しく、冬は寒さが厳しい気候で、特に小谷村や白馬村、大町市北部では積雪が多い。その立地を活かした観光産業や農業、工業が主要な産業として地域の暮らしを支えてきている。

圏域の都市計画区域は大町都市計画区域、池田都市計画区域、白馬都市計画区域の3区域により構成されており、大町市の一部が大町都市計画区域、池田町と松川村の一部が池田都市計画区域、白馬村の一部が白馬都市計画区域に指定されている。

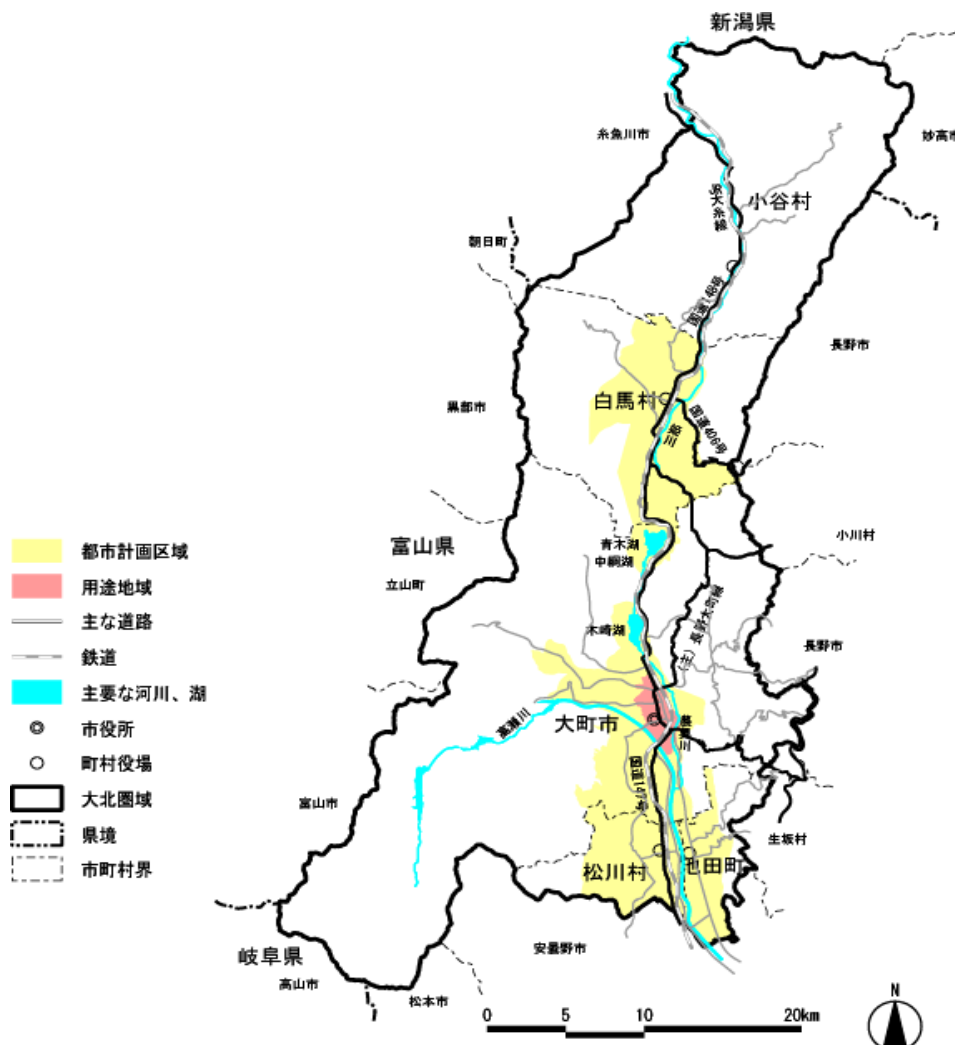
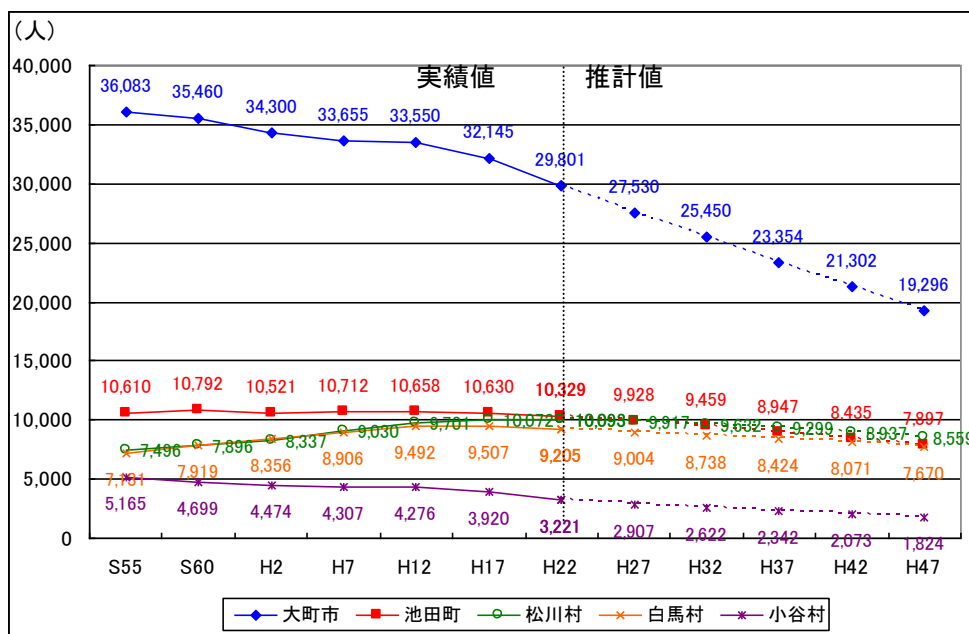


図 大北圏域の概況

ア 人口の動向

大北圏域の人口は、松川村では平成 22 年まで、白馬村では平成 17 年まで増加傾向がみられるが、全体的には減少傾向にある。また、圏域全体の高齢化率（平成 22 年国勢調査）は 29.2%で、長野県の 26.4%より高い値となっている。

圏域人口の推移と今後の見通し



資料：各年国勢調査
推計値は国立社会保障人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』

イ 市街化の動向

人口集中地区は大町市に 1 地区存在するが、その人口、面積、人口密度、行政区域人口に対する人口集中地区人口の割合は減少している。また、用途地域が指定されている大町市では、用途地域の指定のない区域での農地転用割合が高いなど、市街地のスプロール化が懸念される。

ウ 産業の動向

圏域全体の就業人口は 31,447 人で、第 1 次産業、第 2 次産業、第 3 次産業の就業人口の構成比は 9.4%、27.3%、62.5%となっている。

製品出荷額は平成 19 年をピークに 861 億円から 1,313 億円の間で推移している。年間商品販売額は平成 9 年は 1,277 億円であったが平成 19 年には 775 億円に減少している。

表 産業3区分別就業人口

	人口（人）				構成比（%）		
	第1次産業	第2次産業	第3次産業	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
大町市	1,363	4,385	8,859	14,812	9.2	29.6	59.8
池田町	457	1,508	2,988	4,962	9.2	30.4	60.2
松川村	583	1,646	2,834	5,074	11.5	32.4	55.9
白馬村	311	724	3,810	4,854	6.4	14.9	78.5
小谷村	252	322	1,169	1,745	14.4	18.5	67.0
合計	2,966	8,585	19,660	31,447	9.4	27.3	62.5

資料：平成22年 国勢調査

エ 都市整備の状況

大北圏域は南北にＪＲ大糸線が延びており、信濃大町駅でおおむね１時間に１本間隔で運行している。広域的に幹線となる道路の南北軸は、北陸自動車道と長野自動車道を結ぶ一般国道147号、148号、東西軸は本圏域と上信越自動車道を結ぶ主要地方道長野大町線、一般国道406号等である。

施設としては、国営アルプスあづみの公園（都市計画決定355.6ha）の内、254.7haが大町市と松川村で決定されており、平成21年に78.7haが開設され、平成25年には25haが追加開園されている。都市計画区域人口一人あたりの開設済都市公園面積は、長野県都市公園条例の設置基準である10㎡以上となっている。都市計画道路は大町都市計画区域、白馬都市計画区域で17路線58.59kmが都市計画決定されており、改良率は県平均41.86%比べ、38.93%と低い水準となっている。駅前広場はＪＲ信濃大町駅の駅前交通広場3,500㎡とＪＲ白馬駅の白馬駅前広場2,780㎡が決定され、整備済となっている。

オ 観光の動向

大北圏域は登山、渓谷、スキー、温泉など、自然活用型の観光資源が豊富で、県外からの観光客や冬季の観光利用が多くなっている。しかし、スキー場利用者の減少などにより、冬季の観光利用の減少や宿泊客の減少、消費額の減少などの傾向がみられる。

また、近年ではオセアニア地域、アジア地域などを中心とした海外からの観光客誘致に積極的に取り組んでいる。

カ 自然環境

大北圏域内では中部山岳国立公園、上信越高原国立公園の二つの自然公園が指定されており、圏域の面積の33%（36,603ha）を占めている他、姫川源流（白馬村）・唐花見湿原（大町市）・角間池（小谷村）の3箇所が県自然環境保全地域に指定されている。

また、圏域西部の北アルプスは槍ヶ岳の標高3,180mを最高点とする3,000m級の著名な高峰が連なる。また中央に広がる平坦地は標高700m内外である。佐野坂を分水界として、北は一級河川姫川水系、南は一級河川信濃川水系（一級河川高瀬川）に分かれ、本圏域はこの二つの水系の水源地域となっている。圏域内には仁科三湖をはじめとする湖沼や居谷里、唐花見などの湿原が点在している。

林地開発許可状況を見ると、平成19年から平成23年までの過去5年間の開発許可件数

は1件であり、開発圧力は低い。

キ 災害の危険性（自然災害）

大北圏域東部は糸魚川―静岡構造線が走る北部フォッサマグナ地帯西縁に属している。北アルプス山岳地域やフォッサマグナ地域の急峻な山地より流れ出た土砂によって扇状地が形成されている。

平成26年11月には、糸魚川―静岡構造線活断層系の一部である神城断層の一部とその北方延長が活動したと考えられる「長野県神城断層地震」が発生し、県内で最大震度6弱を観測した。この地震により、圏域内の建築物341棟が全半壊するなど住宅を中心とした建築物とともに、道路やライフラインなどの公共土木施設にも大規模な被害が生じた。

圏域内の災害危険箇所として、土石流危険渓流342渓流、地すべり危険箇所170箇所、急傾斜地崩壊危険箇所553箇所が指定されている。また、土砂災害防止対策の推進に関する法律（土砂災害防止法）における土砂災害警戒区域は、土石流400箇所、地すべり48箇所、急傾斜地1,055箇所が指定されており、そのうち土砂災害特別警戒区域は、土石流311箇所、急傾斜地924箇所が指定されている。（平成26年3月31日現在）

（2）大北圏域の現在の都市構造

前述の大北圏域の現状より、圏域の現況の都市構造を以下のとおり整理する。

ア 拠点

J R信濃大町駅周辺は圏域の中核となる市街地となっている。

圏域内には登山、スキー場、溪谷、温泉地などの自然型の観光地が存在し、スキー場や温泉地周辺などには林間居住地も点在している。近年は国営アルプスあづみの公園が一部を残し開園となり、観光拠点の一つとなっている。また、一般国道沿いや主要地方道沿いには情報発信基地として道の駅が配置されている。

イ 連携軸

広域的な幹線軸として、南北軸は一般国道147号及び148号、東西軸は一般国道406号、主要地方道長野大町線があるが高速道路等がなく、高速交通網の空白地帯となっている。また、J R大糸線が南北に伸びている。ただし、一般国道148号は迂回路が存在しない。

ウ 土地利用

圏域の山地の大部分を森林が占めており、まとまった農地は圏域南部に広がっている。

市街地はJ R信濃大町駅やJ R信濃松川駅、J R白馬駅周辺及び主要地方道大町明科線沿道を中心に、一般国道沿いや主要地方道沿いに形成されている。

山間地では農地や集落が散在しているが、都市計画区域には指定されていない地域がある。

大北圏域現況構造図



(3) 圏域の主要課題

前述の大北圏域の現状及び大北圏域の現在の都市構造を踏まえるとともに、近年の都市を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、大北圏域全体にわたる広域的・共通的課題を次のように整理する。

ア 市街地

- 中心市街地の衰退・空洞化、市街地周辺でのスプロール化の進行。圏域内で比較的雪の少ない場所への人口の移動
- 市街地活性化方策の工夫
- 狭あいな道路環境や、オープンスペースが少ないなど市街地の快適性
- 老朽木造住宅など建築物の耐震化

イ 自然環境

- 生物の多様性、良質な水を育む北アルプス一帯及びその山麓の里山や水田等の良好な自然環境の維持
- 山地災害の発生の多い地形条件を踏まえた安全・安心の確保
- 林業の採算性の悪化を背景に手入れ不足の里山が増加
- 野生鳥獣による農産物等への被害が増加

ウ 農村・集落

- 山居集落が広がる平坦地において、後継者不足などを背景とした農業振興地域内農用地区域外農地に対する宅地のスプロール化が進行
- 20年後の農業と農地の維持
- 災害時における中山間地の危険、老朽木造住宅など建築物の耐震化
- 人口減少の抑制とコミュニティの維持

エ 田園・林間居住地

- 郊外の田園居住に対するニーズの高まりに伴う、住居と農地の混在、それに伴うインフラ整備の増加
- 別荘地への定住に伴う公共サービス等の連携の必要性、別荘地の空洞化抑制の検討

オ 観光資源

- 県外からの来訪者、宿泊利用者の減少による交流人口（※）・観光収入の減少
- 通年型観光、観光拠点間の連携による周遊型観光メニューの不足、海外からの観光客の誘致

（※）交流人口：互いに行き来する人の数

カ 交通体系

- 北部地域の生活の幹線でもある一般国道 148 号では長距離の物資輸送を目的とした大型車の比率が高く、騒音の問題等が発生
- 災害時の道路寸断、代替経路不足による集落の孤立等の危険
- 広域的な交流、産業振興、防災機能向上、高速交通網の整備等の面からみた、高速交通網等広域的な幹線機能の不足
- 地域公共交通の維持・強化

2 大北圏域の都市計画の目標

(1) 圏域の基本理念

大北圏域の主要課題を踏まえ、本圏域が一体として圏域づくり・まちづくりに取り組むため、大北圏域の将来像と基本理念、都市づくりの目標を次のように設定する。

【将来像】

雄大な自然と共に歩み、心安らぐ美しいまちを目指して

【基本理念】

地域の風土を活かし、人を育て、知恵と工夫で次世代に贈るまちづくり

【基本方針】

方針1 みんなの元気で育むぬくもりと魅力のあるまちづくり

- 住民参加や提案型まちづくりによる市街地活性化を推進する
- 大北の風土を身近に実感できるまちづくりを推進する
- 水と緑を活かした美しいまちを整備する
- 住民ニーズに応じた住みよさを実感できるインフラを整備する（克雪、防災等に配慮した都市基盤の充実）
- 歩行者や自転車を重視した安心して歩けるまちづくりを推進する
- 空き店舗の活用など、まちづくり機運の醸成等を推進する
- 建築物の耐震化など、大規模災害に備えた災害に強いまちづくりを推進する

方針2 北アルプスに育まれた水と緑豊かな環境の保全

- 身近な自然環境の保全や水と緑に親しむ環境をつくる
- 山地災害や水害等の災害からの安全を確保する
- 低炭素社会の実現に向けたまちづくりを推進する
- 生物の多様性を保全する
- 優れた自然環境を保全する（自然公園の保全）
- 里山など身近な森林の整備等により森林の機能を強化する

方針3 地域資源を活かした特色ある田園・山村づくり

- 北アルプスを背景に広がる田園景観の保全に向けた広域的な土地利用を検討する
- 農業振興策と連携し、農地を保全する
- 住みよい集落の実現のための生活基盤整備を推進する
- 後継者育成、体験農業の推進により地域の活力を向上する
- 耕作放棄地を抑制し、田園景観を維持する
- 野生鳥獣被害対策を進め、野生鳥獣との緊張感ある棲み分けが図られた集落をつくる
- 伝統的な景観の保全への支援を進める

方針4 緑に抱かれたゆとりある暮らしの実現

- 緑とふれあいながら暮らすゆとりのある居住環境をつくる
- 多様なニーズや景観保全に配慮し、質の高い別荘地への再生を図る（空き別荘などの有効活用の検討等）
- 居住者による協定等により林間居住地の良好な環境を保持する

方針5 質の高い観光ネットワークによる体験交流空間の創出

- ゆとりのある余暇利用や滞在型観光を支える移動手段を創出する（自転車、徒歩等）
- 身近な自然を活かした体験交流拠点を形成する
- 協定等の締結により観光拠点の良好な景観を形成する
- 農林業との連携による宿泊・体験型観光振興への取り組みを推進する

方針6 山と海の交流を深める新時代の塩の道づくり

- 安全性、環境面、防災面に配慮した幹線道路や大都市、圏域外との交流ルートの機能を強化する
- 災害時の代替交通機能の確保を図る
- 基幹産業の振興や住民の生活を支える幹線交通網を充実する
- 千国街道等地域の歴史や文化を実感できる散歩道等を伝承する
- 良好な沿道景観の形成に関する広域的な取り組みを推進する

（２） 圏域の将来都市構造

基本理念の基に圏域の将来像を実現するため、大北圏域の将来都市構造を次のように設定する。

北アルプスの雄大な山岳や豊かな森林、山麓の平坦地にまとまって農地の広がるエリア等の良好な環境を保全するとともに、市街地は各市町村の既成市街地の一帯に集約していく。

あわせて、南北の幹線道路を圏域の軸としてその機能を強化しながら、この軸と市街地や周辺の資源との結びつきを強化していく道路整備、豊かな自然や里山を活かした公園整備等を進め、圏域の雄大な自然と共に歩みながら、魅力のある圏域づくりを目指す。

また、都市施設の整備にあたっては、糸魚川―静岡構造線活断層帯の情報を考慮したうえで、施設の配置や構造等を検討する。

ア 拠点

○ 市街地・既存の集落

既成市街地や既存集落への集約を図るとともに、自然災害による被害の抑止、軽減を図り、災害に強いまちづくりを進めるため、避難路となる道路や一時避難所となる公園等の公共施設の整備を進めるとともに、住宅や避難施設、多数の者が使用する建築物等の耐震化を図る。

○ 公園・緑地（水と緑の交流拠点）

北アルプスの豊かな自然に育まれた本圏域の特徴を踏まえ、身近に水や緑を実感できるまちを実現させていくため、圏域内の里山や水辺などの資源を活かして、緑や水辺とふれあうことのできる交流の拠点を形成していく。

○ 河川、湖

本圏域を流れる一級河川高瀬川、一級河川姫川の二つの大きな河川と仁科三湖は、圏域全体の環境の骨格として考えることができる。これらの水域に支流の河川や水路などを加え、上流、下流の關係に留意した水辺の保全・活用を推進するとともに、水辺の連続性や災害等からの安全性の確保に努める。

○ 主要な観光交流拠点、スキー場を中心とした観光地、主要な林間居住地・別荘地

圏域内にある観光地、別荘地については国際化への対応を進める。また、拠点性のさらなる向上や情報の連携、サイクリングや外国人観光客のための乗り合いバスの運行等多様な移動手段の確保などにより、相互のネットワークを強化する。

イ 連携軸

○ 主要幹線軸

市街地の活性化、圏域内の生活の利便性の向上、商工業、観光等の産業の発展及び災害や救急医療等非常時における緊急輸送路の確保等に配慮した道路ネットワークの形成を図るため、「地域高規格道路松本糸魚川連絡道路」などの圏域間を広域的に結ぶ主要幹線軸の機能強化を図る。

○ 観光アクセス軸

本圏域には、北アルプスに育まれた様々な自然資源を活かした観光拠点がある。白馬・

梅池方面、立山黒部方面、大町温泉郷・高瀬渓谷方面、安曇野方面など特に多くの利用者に親しまれている拠点に通じる道路は、圏域の特徴を活かした観光である自然体験、交流を深めるうえで重要な役割を担うアクセスルートとしてその機能の充実を図る。

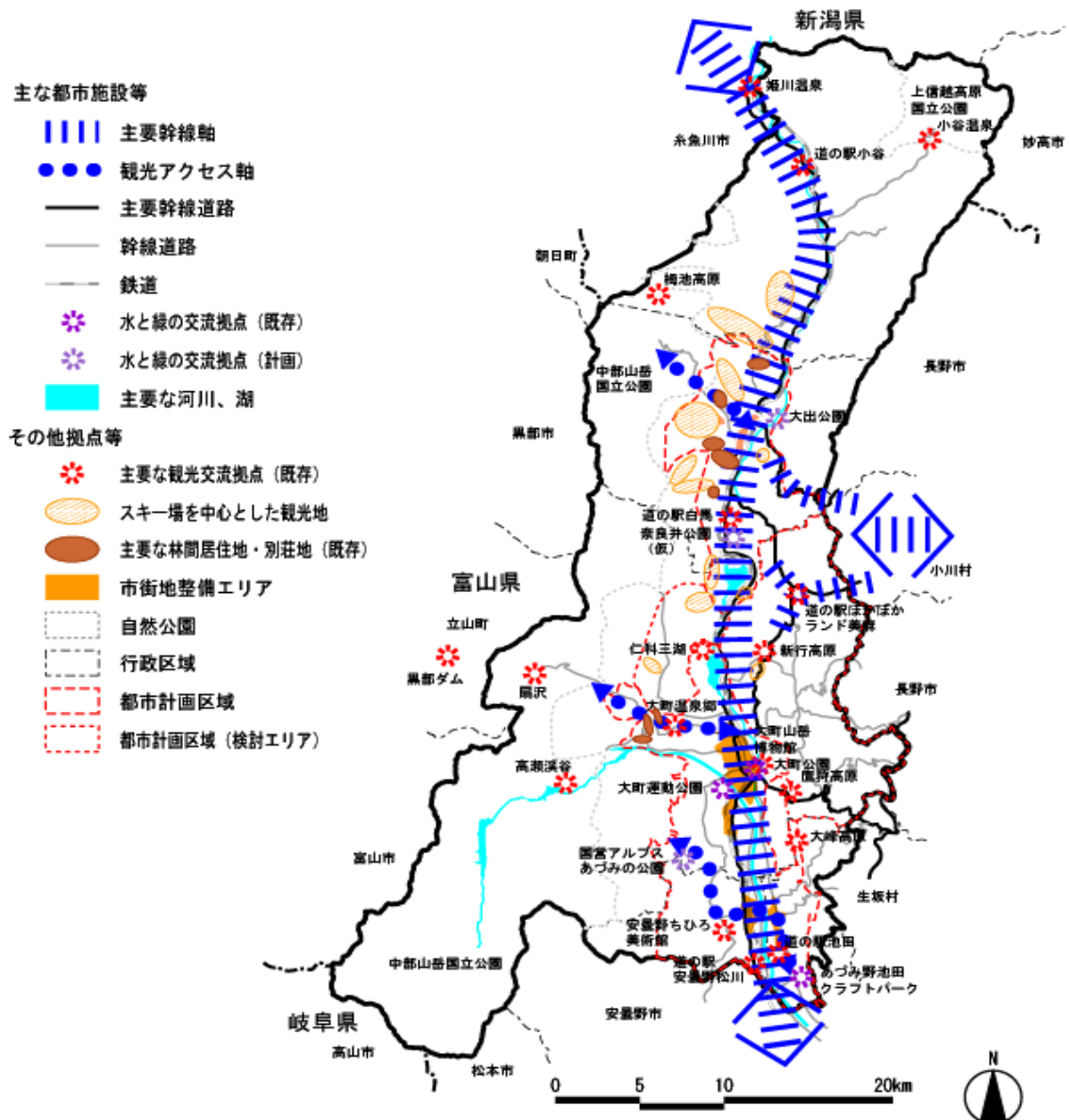


図 主な都市施設の整備方針

ウ 土地利用

○ 優れた自然環境の保全

圏域の東西両縁に広がる森林を保全し、良好な自然環境を維持していく。このうち、西側の北アルプス一帯は、現在の環境を原則保持するエリアとする。なお、利用にあたっては自然環境の状況に応じた適正な利用を図るものとする。

○ 人と自然の共生による良好な環境の保全

北アルプスの山麓や麓の森林はスキー場などが位置することから人の活動と森林の保全

のバランスのとれた共生を目指すエリアとする。また、東山の山間部には里山と集落が一体となって、農林業と自然環境との調和した区域がみられる。この区域の環境を持続するとともに、集落の生活基盤の充実を図る。

面的な農地の広がりの中に集落の散在する北アルプス山麓の平坦地の区域には、田園景観が広がっている。このエリアは農業を持続し、この景観を保全していくエリアとして位置付ける。

○ 適正な土地利用の推進

市街地は、用途地域や既存の市街地を中心とした一定のエリアにコンパクトに集積させていくことで、自然環境や田園の保全とのバランスを保つとともに、道路や公園等のオープンスペースの整備、建物の更新にあわせた耐震化・不燃化を促進し、防災性の高い土地利用を推進する。

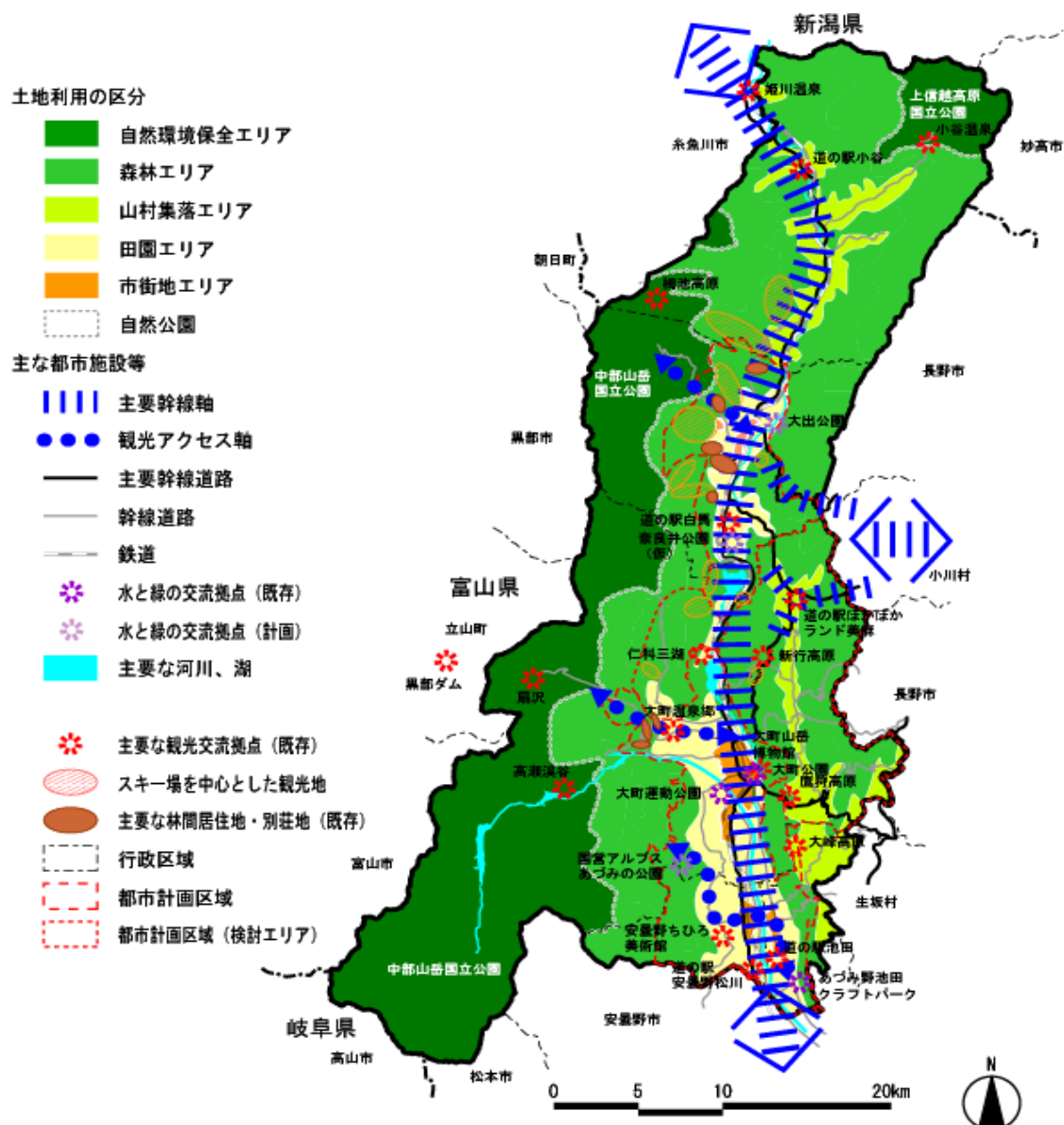


図 大北圏域の都市構造図

3 池田都市計画区域の都市計画の目標

(1) 都市計画区域の現状と課題

池田都市計画区域の位置する池田町、松川村は、ともに、北アルプスの山並みを背景にし、豊かな広がりをもつ水田と緑豊かな屋敷林とが調和した、安曇野特有の田園景観が維持されている。

このような景観の広がる両地域での暮らしは、水田農業を基盤とし、集落単位のまとまりが古くからの生活の基盤であった。しかし、長野自動車道、北アルプスパノラマロード（一般県道有明大町線）の開通に伴い、首都圏や中京圏との時間距離が短縮されたことから、住民の生活様式も都市型に変化してきている。近年、価値観の多様化から、良好な自然環境や景観を求めて都市部から本区域へ移住することへのニーズは高まる傾向にある。

今後は、環境に配慮したまちづくりの重要性や、農業維持と市街地整備のバランスを確保した土地利用の実現に取り組んでいくことが重要である。

このため、池田都市計画区域の広域的な位置付けを踏まえたうえで、都市計画の目標とその実現に向けた基本的な方針を以下に示す。

(2) 都市計画区域の範囲と目標年次

① 都市計画区域の範囲

- ◆ 都市計画区域の名称：池田都市計画区域
- ◆ 対象市町村：池田町、松川村
- ◆ 範囲：池田町の一部（池田地域）及び松川村の一部（松川地域）

② 目標年次

- ◆ 都市計画の基本的な方向 平成 42 年
- ◆ 都市施設などの整備目標 平成 32 年

(3) 都市づくりの基本理念

本区域では、豊かな緑と景観に育まれた住みよい居住地としての機能を重視したまちづくりに両地域一体で取り組むことを、当面 10 年間の都市づくりの理念として設定し、以下の目標像を掲げる。

目標像：美しい安曇野の田園に育まれた安らぎとゆとりのまち

以下に、目標像を実現させていくうえでの都市づくりの方向性、土地利用の方針、都市施設整備の方針をそれぞれ整理する。なお、本区域に指定されている池田町と松川村は、一級河川高瀬川の両岸に位置しており、それぞれの産業の発展や土地利用の状況等に違いがある。

このことから、上記の目標像を踏まえながら、それぞれの地域毎に整理する。

【池田地域】

① 眺めを活かした安らぎを実感できる田園居住エリアとしてのまちづくり

池田地域は、面的な農地の広がりを持ち、東山麓から、良好な北アルプスの眺望を享受できる地域である。住民生活の面においても、大町や安曇野・松本などとの結びつきも深く、冬季の積雪も少ない。これらの特性を活かし、美しい眺めの中で住みよさを実感できる居住空間としての機能に優れたまちの整備を計画的に推進する。

② 里山、田園と居住環境の良好な共存を目指した土地利用の推進

良好な田園や山岳景観の保全と生物多様性への配慮、住宅地の整備のバランスを図るため、一級河川高瀬川左岸一帯の優良農地の保全、農業振興地域内農用地区域外農地における計画的な居住地の誘導を図る。また、あづみ野池田クラフトパーク等東山麓の里山の利活用を図り、良好なレクリエーション機能を兼ね備えた居住環境を形成する。

③ 快適な居住環境を支える都市施設の整備

池田地域では主要地方道大町明科線沿いに商業施設が進出するなど、今後無秩序な開発が予想され、これらを計画的に規制誘導するため、「池田町の土地利用及び開発指導に関する条例」を制定している。この条例を基に、公園や道路等の充実により、居住環境の快適さの向上や防災機能の強化などを図り、高齢者や新たな居住者等に配慮し、住みよさを実感できるまちを形成する。

【松川地域】

① 安曇野の原風景を大切にしたまちづくり

松川地域は、大北圏域の中でも面的な水田の広がりとその中に屋敷林等の緑が散在する安曇野の景観を色濃く残している場所として知られている。そこで松川地域では、この景観とそれらを生み出す環境や風土との調和に留意した、原風景を大切にしたまちづくりを推進する。

② 広がりのある田園の環境を持続できる土地利用の推進

松川地域は、西部に広がる森林と、中部に広がる田園景観、東部の市街地・住宅地の3つの特徴的なエリアで形成されている。松川地域の土地利用では、西部の森林の保全、生物多様性への配慮、中部の優良農地における無秩序な開発の抑制と田園景観の保全、東部の田園景観と調和した住みよい市街地の形成を推進する。

③ 生活環境を支える都市施設の計画的な整備

松川地域は、計画的な土地利用を規制誘導するため「松川村むらづくり条例」を制定し、宅地整備、商業施設の進出等による無秩序な開発等を抑制している。これまでの生活環境保全との調和を図り、住民が安心して快適に暮らせる公園や道路などの都市施設、地域の活性化、防災機能や生活環境の向上に資する基盤整備を一層進める。

(4) 地域毎の市街地像

本区域を池田地域と松川地域に分け、地域毎の市街地像を整理する。

【池田地域】

池田地域は、池田北部地域と池田南部地域、池田東部山麓地域の3つに区分される。このうち、池田地域の中心市街地を形成しているのは、池田北部地域の主要地方道大町明科線沿いである。

① 池田北部地域

本地域の中でも主要地方道大町明科線沿いには住宅・店舗などが集積し、また、ここには役場や学校などの公共施設も立地しており、池田町の中心的な市街地が形成されている。近年中心市街地では空き店舗・空き家が増加しており、その対策が急務となっている。区域の中心的な市街地としての機能をより高めていくため、「池田町土地利用調整基本計画」で定めた市街地形成地域、産業振興地域、田園環境保全地域、田園環境活用地域の区分に従った土地利用を促し、また、公共施設や道路、下水道等の都市施設の整備を行い、住民の利便性、快適性の向上、中心市街地のにぎわいの再生を図る。

② 池田南部地域

池田南部地域では、まとまりのある農地の中に集落等の散在する土地利用が多くみられ、良好な田園景観が維持されている。地域内の主要幹線（主要地方道大町明科線、一般県道原木戸安曇追分停車場線）沿いでは、北アルプスの眺望確保、田園景観との調和に配慮し、「池田町土地利用調整基本計画」で定めた田園環境保全地域、田園環境活用地域の区分に従った土地利用を図る。また、住宅や工場等の立地にあたっては、農地転用を最小限にとどめ、農地の保全に努めるとともに、田園景観に配慮した土地利用を推進する。

③ 池田東部山麓地域

池田東部山麓地域では、山麓に沿って古い集落や新しい住宅団地がみられる。ここからは北アルプスとその麓に広がる安曇野の田園景観を一望することができる。このような良好な眺望を活かすとともに、山麓部の荒廃が進む農地の有効利用を図りながら、「池田町土地利用調整基本計画」で定めた田園環境保全地域、山麓集落地域、里山空間保全・活用地域、山村集落地域の区分に従った土地の利用を促し、自然とふれあうことのできる緑豊かな居住環境の形成を推進する。

【松川地域】

松川地域は、松川西部地域、松川中部地域、松川東部地域の3つに区分される。

中心市街地は、松川東部地域の一般国道147号と一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いに形成されている。

① 松川西部地域

松川西部地域は、主として一級河川乳川の西側に位置し、安曇野の田園景観を形成する広がりのある農地と山麓部の森林があることから、これらを保全して良好な環境を維持することを基本とする。

宅地や公園等公共施設、観光施設は、一般県道有明大町線（通称：山麓線）沿いの集落や既存施設の周辺に配置し、周辺景観との調和に努める。

② 松川中部地域

松川中部地域は、松川東部地域と松川西部地域との間に位置し、水田の広がりの中に集落が点在する地域である。このような農業を基盤とする土地利用を維持する。

宅地の整備は、集落の中及び周辺に集約し、まとまりのある農地の保全、田園景観との調和に配慮する。

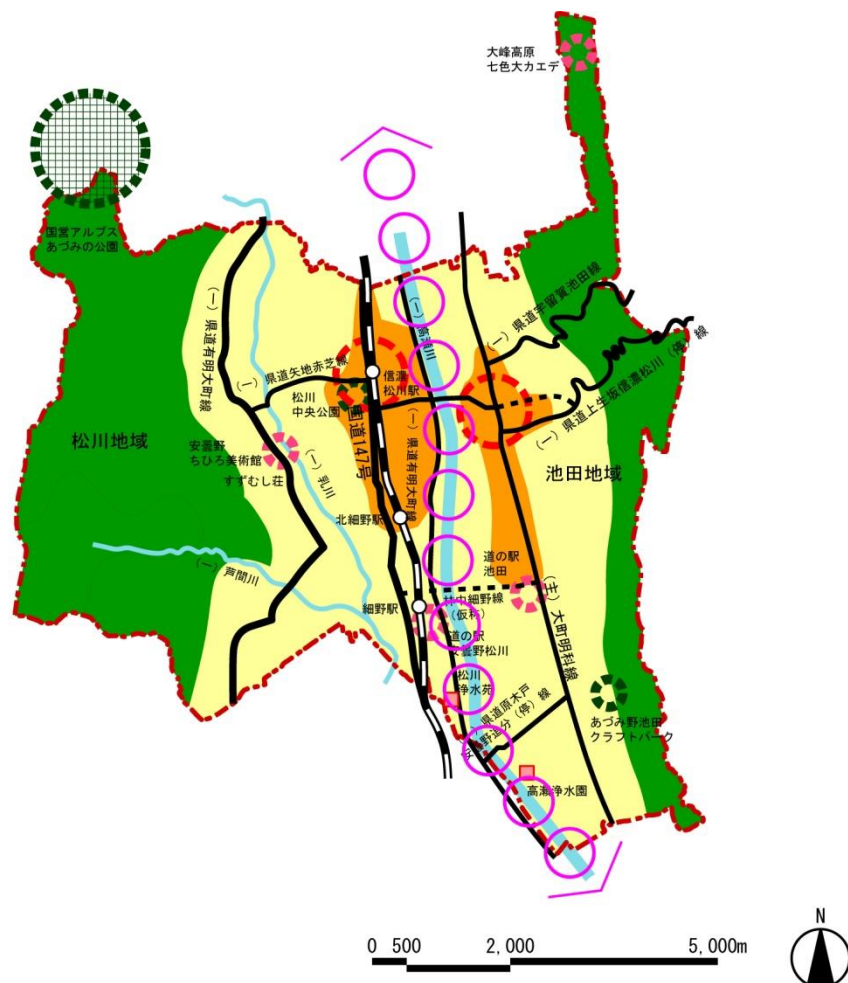
③ 松川東部地域

松川東部地域は、一般国道147号の東側に位置する住宅地と商業地、工業地などがみられる地域である。

ここでは、一般国道147号及び一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いに商業を中心とした施設を集約する。また、北東部に産業創造の拠点が設定されており、新たな産業の創出に関連する施設はこれらの区域に集約を図るなど、商業、工業、宅地のおおむねのゾーン区分を行い、計画的に市街地の形成を進める。

これとあわせ、公園や緑地帯等の整備を推進し、水と緑あふれる市街地の形成に努める。

都市構造図（池田都市計画区域）



凡例

森林エリア

田園エリア

市街地エリア

主要な河川、湖

生活拠点
（都市機能の充実を図るエリア）

主要幹線道路（既設）

幹線道路（既設）

構想道路（参考）

鉄道

○ 鉄道駅

■ その他の都市施設

主要な観光交流拠点（既存）

水と緑の交流拠点 ※1
（既設）

水と緑の交流拠点 ※1
（一部供用・整備中）
※1 4ha以上の都市公園

都市計画区域

地域高規格道路（構想路線） ※2

※2 平成20年度長野県公表の地域高規格道路松本糸魚川連絡道路概要図

4 区域区分の決定の有無及び区域区分の定める際の方針

(1) 区域区分の決定の有無

本都市計画に区域区分を定めない。

なお、区域区分を定めなかった根拠は、次のとおりである。

ア 県による県下同一基準での判断結果

県では、人口の動向、土地利用の状況等に着目し市街地外への宅地化の傾向等に関する県下同一基準に基づいて、本区域における区域区分の必要性をやや高いと判断した。その概要は以下のとおりである。

- ・本区域内の人口はおおむね2万人であり、都市の集積性は高くない。松川村の人口は増加傾向にあるものの、人口増加に伴う宅地開発は村の計画に従い既存の住宅地内に誘導している。また、第2次、第3次産業就業者の伸び率は長野県の平均よりも低く、市街地拡大の可能性は低い。
- ・用途地域は指定されていないが、主要地方道大町明科線や一般国道147号、一般県道上生坂信濃松川停車場線沿線等に宅地の集積がみられ、市街地形成の必要性がある。

イ 地域特性を踏まえた区域区分の検討

池田町では、土地利用調整基本計画を策定し「池田町の土地利用及び開発指導に関する条例」を制定しているほか、「池田町自然保護等指導基準要綱」や「池田町開発事業指導基準要綱」などにより無秩序な開発抑制等の指導をしている。一方、松川村では、土地利用調整基本計画を策定し農業振興地域農用地区域の解除について一定のルールを定め、これを「松川村むらづくり条例」で担保しているほか、この計画で、森林についても森林保養や自然環境の保全を主としたゾーンとして位置付けている。さらに、「松川村開発事業等指導要綱」により建築物や緑化について村独自の基準を設け指導を行っている。

今後もこのような方策を継続し、周辺環境と調和したまちづくりを進める方針であるため、無秩序な市街化は進展しないものと考えられる。

ウ 区域区分以外の土地利用施策の導入及び継続を前提として「区域区分」は行わない

本区域は、アでは、区域区分の必要がやや高いと判断されたが、イに示す地域特性を踏まえると急激な市街化は考えにくい。したがって、両町村の土地利用調整計画とあわせ、区域区分以外の都市計画手法による土地利用規制・誘導を進め、計画的な土地利用を図る。

このような本区域の状況と考え方を踏まえて、以下のような方針とする。

本区域は今後、他の法令との適切な連携のもとで、各種都市計画手法、建築基準法に基づく制度の活用等により、計画的な土地利用の実現を前提として、区域区分を定めない。

(参 考)

「区域区分」とは

「区域区分」とは、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を、優先的、計画的に市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」とに区分することで、一般に「線引き」といわれている。

「区域区分」を「する」か「しない」かは、県が判断

平成 12 年 5 月の改正以前の都市計画法では、「区域区分」をするか、しないかは国が法律によって定め、当分の間、一定の条件を満たす都市計画区域を対象として、限定的に実施されてきた。しかし、高度成長期の「都市化社会」から安定・成熟した「都市型社会」への移行など、近年の社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、平成 12 年 5 月の都市計画法の改正により、「区域区分」については、広域的な観点から県が、地域の状況に応じて区域毎に判断することとなった。

(2) 区域区分の方針

前項で記述のとおり本区域では区域区分は行わないため、本項目に対する記述は要しないが、本区域の基本理念に基づき、計画的なまちづくり実現に向け、今後の人口について以下のとおり参考表記する。

ア おおむねの人口

本区域の将来におけるおおむねの人口を次のとおり想定する。

年次 区分		平成 17 年 (基準年)	平成 27 年 (中間年)	平成 32 年 (目標年)
都市計 画区域	池田町	10.4 千人	おおむね 9.8 千人	おおむね 9.4 千人
	松川村	10.6 千人	おおむね 9.9 千人	おおむね 9.6 千人
人口 合計		21.0 千人	おおむね 19.7 千人	おおむね 19.0 千人

(注) 平成 17 年基準年人口は「国勢調査」及び「都市計画基礎調査」による統計値。

平成 32 年欄の都市計画区域内人口は、国立社会保障・人口問題研究所によるコーホート要因法により算定し公表した行政区域人口から、平成 22 年国勢調査結果を考慮したうえで、回帰式による都市計画区域外人口を減じて算定。

5 主要な都市計画の決定の方針

(1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針

ア 主要用途の配置の方針

本区域では、幹線道路沿いを中心に市街地を形成するとともに、その周囲に広がるまとまりのある田園を保全し、池田、松川両地域一体で緑豊かな田園に育まれた住みよい環境づくりを進める。

(7) 商業地

商業地は、主に幹線道路沿いに集約し、施設の整備にあたっては、街並みの景観及び周辺の環境に配慮し、適正な規模やデザインなどの誘導に努める。

【池田地域】

商業地は、既存の商業施設が多く立地している主要地方道大町明科線沿いに主に配置し、既存の施設の周辺に集約することにより、まとまりのある商業地の形成を図る。その際には、低・未利用地等の有効活用を推進する。

【松川地域】

商業地は、一般国道 147 号及び一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いを中心として集約する。施設の整備にあたっては、街並みの景観及び周辺の環境に配慮し、適正な規模やデザインなどの誘導に努める。

(4) 工業地

既存の工業の拠点に集約することを基本とし、施設の立地にあたっては、外周部などの緑化の推進により、周辺の土地利用や環境、景観との調和を図る。

【池田地域】

「池田町土地利用調整基本計画」で定めた産業創出候補区域への集約を図る。

【松川地域】

「松川村土地利用調整基本計画」で定めた産業創造ゾーンへの集約を図る。

(5) 住宅地

住宅地は、既存の市街地を中心とした一定のエリアに集約を図り、まとまりのある優良農地の保全に特に留意する。

【池田地域】

住宅地は既存の集落周辺への集約を基本とする。まとまりのある農地の広がる区域ではその保全を基本として、農地転用は最小限に止める。

【松川地域】

「松川村土地利用調整基本計画」により配置することを基本とし、既存の住宅地間の点在した非農用地へ誘導する。また、一般国道 147 号より西側の地域では、点在する農業振興地域内農用地区域外農地における宅地開発が農地の中に無秩序に拡散しないよう、既存集落に集約的に誘導する。

イ 土地利用の方針

(7) 用途転換、用途純化又は用途複合化に関する方針

工業、商業、住宅などは同じ用途の土地への集約化を図り、用途が混在しない適正な市街地の形成を図るとともに、農地への無秩序な市街化を抑制する。

【池田地域】

- ・住宅団地、工業誘致などの新たな開発に際しては、農地の保全を優先として、農地の転用は最小限に止める。
- ・遊休荒廃が進んでいる農地については、現況をよく把握しながら基盤整備と開発の両面から検討し、自然環境に配慮した多面的な土地利用を推進する。

【松川地域】

- ・人口増加や宅地需要の増大による、虫食いの的な宅地開発の拡散を防ぐために、既存市街地内の非農用地に宅地開発を誘導する。
- ・一般国道 147 号及び一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いでは、商業地や住宅地などの無秩序な拡散が懸念されるため、こうした開発を計画的に集約し、住宅地と商業地、工業地のすみ分けを図る。
- ・工業地の無秩序な拡散を抑制するため、工場、倉庫など工業系施設の立地を優先する区域を設定し、集約化を図る。

(4) 居住環境の改善又は維持に関する方針

両地域ともに、中心市街地では狭い道路が多く、建物が密集している。このような区域では道路や下水道、公園等の都市施設の整備とともに木造老朽住宅をはじめとする建築物等の耐震化を進め、防災性、利便性、快適性の向上に努める。

郊外の田園の集落では、各地域の特性を踏まえながら、以下に示すような北アルプスとその麓に広がる田園景観を活かした居住環境の改善、維持を進める。

【池田地域】

- ・東山麓部の荒廃農地等を有効に活かし、既存の集落環境との調和を図りながら、北アルプスの山並みや田園の良好な眺望を享受できる居住地を確保する。整備にあたっては、接道部の緑化や眺望の確保、身近な公園等の整備に努める。

【松川地域】

- ・居住環境の整備にあたっては、生け垣の設置や屋敷林の保全などにより、緑豊かな松川村特有の田園環境との調和を図り、身近な地区公園等の整備を進める。

(5) 優良な農地との健全な調和に関する方針

優良農地の保全を優先し、農地転用は必要最小限に止める。

また、農業振興地域農用地区域は、「長野県農業振興地域整備基本方針」に基づき、土地利用の規制・誘導策と農業振興施策との連携によって保全する。

【池田地域】

- ・農地における開発に際しては、農地保全の立場から農地転用は最小限に止める方向とする。また、農地の集積による規模の拡大と省力化を推進し、優良農地としての活用

を図る。

【松川地域】

松川地域における農地は、以下の方針に沿ってその保全を図る。

- ・農業振興地域内の農用地について、基本的に除外は行わない。
- ・「松川村土地利用調整基本計画」により農業振興地域において、農業振興農用地を除外する場合は等積以上の農業振興除外地との交換によるものとする。

(エ) 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針

土砂災害から住民の生命を守るため、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害のおそれのある区域についての危険周知、警戒避難体制の整備、一定の開発行為の制限、建築物の構造規制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進する。

(オ) 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針

山間部及び山麓部の森林の持つ公益的な機能の維持、向上を図るとともに、山麓部の自然環境を活かし、自然とのふれあいを深める空間の整備に努める。

また、「生物多様性なごの県戦略」に基づいた取り組みを進めるなど、生物多様性にも配慮する。

【池田地域】

- ・区域の東側には比較的急な森林が広がる。水源かん養などの公益的機能の維持・向上、土砂災害の防止等を図るため、適切な森林管理、治山等の対策との連携を図り、この森林の保全を図る。
- ・東山山麓部に広がる森林、農地、あづみ野池田クラフトパーク等を、自然とふれあう拠点等として有効活用しながら、山麓部一体の自然環境の保全を図る。

【松川地域】

- ・山間部から山麓部にかけての森林は、環境保全、防災、景観などの様々な機能の面から、本地域の環境の骨格として重要であることから、現状の良好な自然的土地利用を維持する。
- ・山麓部の緩傾斜地に広がる森林の一部は、その土地利用計画に従い、自然とふれあう拠点等として、現存の資源を有効活用する。

(カ) 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針

現在の土地利用や将来の市街地像を見据えた建築物の容積率、建ぺい率の区分に沿って、周囲の景観や環境に調和した形態、規模の建築物の立地を図る。

水田の広がりの中に散居集落のみられる両地域の田園では、良好な環境を保全するため、低層住宅地に定められる制限と同程度の建築物の規模とする。

幹線道路の沿道や市街地の中心部、中低層住宅が立ち並んでいる地域では、低層住宅等の環境を保持できる規模の建築物の立地を図る。これとあわせ、池田、松川両地域の農業振興地域内農用地区域外農地の分散状況を勘案しながら、まとまりのある優良農地を保全

するゾーンと都市的な土地利用の集約を図るゾーンを分け、その実現を担保するため、都市計画制度のさらなる導入や自主条例などにより、計画的な都市的土地利用の実現を図る。

また、地震時における建築物の倒壊による道路閉塞を防止し、円滑な避難、救急・消防活動の実施、緊急物資の輸送を確保するため、緊急輸送路沿道の建築物の耐震化を進める。

(2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

ア 交通施設の都市計画の決定方針

(ア) 基本方針

本区域の交通施設に関する交通体系の整備の方針と整備水準の目標は以下のとおりとする。

1) 交通体系の整備の方針

本区域には「糸魚川－静岡構造線」があり、大規模な地震災害が起こる可能性のある地理的条件下にある。このため、災害時において、主要幹線道路は広域的な避難路や緊急輸送路として、幹線道路やその他の道路は地域での避難路や延焼遮断帯としての役割を考慮したうえで、地域の防災性を高める道路網の整備を図る。

本区域内の道路交通網の南北軸は、池田町の市街地の中心を走る主要地方道大町明科線と松川村の市街地の中心を走る一般国道 147 号、北アルプスの山麓と一級河川高瀬川沿いをそれぞれ走る一般県道有明大町線の 4 本の主要幹線道路からなる。一方、両地域の市街地を結ぶ東西軸は、一般県道上生坂信濃松川停車場線及び一般県道矢地赤芝線に限られる。このほか、松川地域には J R 大糸線があり、隣接地域を含めた生活や通勤・通学上の重要な軸となっている。

このような現状を踏まえ、本区域では、南北、東西の軸のバランスや道路交通と鉄道とのつながりの充実を図る。圏域全体の観光利用の促進、救急医療や産業の発展などを見据え、本区域の南側に接する安曇野・松本方面、また北側に接する大町・白馬方面をつなぐ南北方向の主要幹線軸については、地域高規格道路松本糸魚川連絡道路による強化を図る。

また、区域内経済活動の効率化、通学の際の移動の円滑化等を図るため、池田地域と松川地域を東西方向につなぐ幹線軸を強化する。

上記の交通体系整備の方針を踏まえ、本区域の主要幹線道路、幹線道路、その他の道路の具体的な整備方針を次のように設定する。

○主要幹線道路、幹線道路網の機能向上

主要幹線道路及び幹線道路については、周辺の環境に配慮し、道路の安全性や快適性を確保するため、道路幅員の拡大や歩道の整備等を推進するとともに、主要幹線・幹線道路における既存施設の長寿命化対策を図る。また、観光地などに集中する自動車の混雑解消や、排気ガスなどによる環境への影響の低減、周辺住民や観光客の交通の安全確保に努める。

○その他の道路との役割の明確化

日常生活における道路の安全性を確保するため、主要幹線道路や幹線道路の広域的な交通が、生活道路となっている町村道に流入しないように、それぞれの道路の機能に応じた役割を明確にし、安全で快適な交通体系の形成を目指す。

2) 整備水準の目標

主要幹線道路、幹線道路における交通の流れを、安全性に配慮しながら、広域的な交通をより円滑にすることを目標とする。また、幹線道路の機能を補完する路線の整備を進め、J R 大糸線の駅と生活拠点との結びつきを強化し、区域内の住民の住みよさをより向上させていくことを目指す。

(イ) 主要な施設の配置の方針

本区域における主要施設のうち、検討が具体化している施設の配置の方針は次のとおりである。

【主要幹線道路】

都市間を結ぶ広域的な道路及び災害時の避難路や緊急輸送路としての機能強化を図ることを基本とし、大北圏域の南側からの玄関口として、圏域全体の交通体系に関わる南北軸の道路の強化を推進する。

○一般国道 147 号

○一般県道有明大町線（通称：山麓線）

○一般県道有明大町線（通称：北アルプスパノラマロード）

○主要地方道大町明科線

注）ゴシック体：既設道路

【幹線道路】

主要幹線道路を補完し、周辺都市との交通や区域内の住宅地、就業地、観光拠点や鉄道駅など交通が集中する地区を連絡し、地域や市街地の土地利用における骨格の形成を図る。特に、一級河川高瀬川をはさんで位置する両地域の市街地南部を結び、相互の交流や生活動線の充実を図る。

○一般県道上生坂信濃松川停車場線 ○一般県道矢地赤芝線

○一般県道宇留賀池田線

○一般県道原木戸安曇追分停車場線

注）ゴシック体：既設道路

(ウ) 主要な施設の整備目標

おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設は、次のとおりとする。

表 道路整備に関する方針

主な施設	施設名と整備目標
道路 (主要幹線及び 幹線道路)	・ 一般県道上生坂信濃松川停車場線

イ 下水道及び河川の都市計画の決定の方針

(7) 基本方針

1) 下水道及び河川の整備の方針

【下水道】

本区域では、市街地等の生活環境の改善、河川等の環境保全の観点から、公共下水道、特定環境保全公共下水道をはじめとする下水道事業が進められ、整備が完了している。今後はこれまでに整備された下水道施設の適正な維持・管理、下水道への接続率の向上を推進する。

【河川】

一級河川高瀬川中流域に位置する区域として、上流域の状況、地域社会と河川との関わりに留意し、ハード・ソフト対策が一体となった防災・減災対策を進める。また、河川敷を利用したレクリエーション施設や、生物の生息地となる空間の整備を推進し、河川敷や堤防を利用した散策路やサイクリングロードにより、河川敷及び周辺の公園・緑地の連続性を確保し、河川周辺の一体的な利用と緑化の推進を図る。

2) 整備水準の目標

下水道施設の適切な維持・管理に努める。

(4) 主要な施設の配置の方針

前項の各施設の整備方針より、本区域の主要施設の配置の方針を示す。

【下水道】

- ・両地域でこれまでに整備された下水道施設の適正な維持・管理により長寿命化を図るとともに、下水道への接続率の向上を推進する。

【河川】

- ・池田町及び松川村の地域防災計画に記載されている重要水防区域を中心に、河川改修を行う。
- ・一級河川高瀬川河川敷のオープンスペースの有効活用、利用促進を図り、地域住民の交流の場としての機能を高めていく。

(5) 主要な施設の整備目標

本区域でおおむね 10 年以内に整備する施設は次のとおりである。

【河川】

表 整備対象河川

地域	区分	河川名
池田・松川	一級河川	高瀬川

ウ その他の都市施設の都市計画の決定の方針

健康で文化的な都市活動と都市機能の向上、良好な生活環境の確保を図るため、隣接する安曇野市に整備されている既存施設（穂高クリーンセンター）の機能の維持、向上に努める。

(3) 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針

ア 基本方針

【自然的な環境の特徴と現状、整備又は保全の必要性】

本区域は、雄大な北アルプスの麓に位置し、北アルプスの豊かな森林やそこから流れ出す清流、東山の豊かな森林に恵まれている。池田地域は、東山山麓から北アルプスとその麓に広がる田園景観が一望でき、松川地域は、今日においても水田の広がりと点在する屋敷林がおりなす安曇野特有の田園景観を残す地域である。一方で、林業の採算性の悪化を背景とした適切に管理されていない森林の増加は、近年の野生鳥獣による農作物等への被害の一因ともなっている。

これらの田園景観を形成する農地や森林などの豊かな緑を保全するとともに、田園や山岳の景観を活かした良好な居住環境の形成に寄与する公園、緑地の整備、緑化の推進、公園施設の長寿命化を図る。

また、これらの自然的環境は生物多様性に配慮した整備又は保全を図る。

【緑地の確保目標水準】

都市公園、緑地の計画的な整備により、都市計画区域内の緑地の保全、緑化の推進を積極的に行い、永続性のある緑地の確保を行う。

【住民一人あたりの公共空地の確保】

21 世紀初頭の全国的な計画目標水準である一人あたり 20 m²以上を満たしているため、今後 10 年間ににおける都市公園等の整備目標水準を、基準年と同程度に設定する。

表 都市公園等の施設として整備すべき緑地の目標水準

項目 \ 年次	平成 22 年 (基準年)		平成 32 年 (基準年から 10 年後)
都市計画区域内人口 一人あたり面積	池田町	21.73 m ² /人	基準年と同程度
	松川村	21.64 m ² /人	
	計	21.69 m ² /人	

資料：2011 長野県の都市計画

イ 主要な緑地の配置の方針

本区域内にある緑を環境保全、レクリエーション、防災、景観構成の 4 つの視点から整理し、それぞれの系統について整備又は保全の方針を示す。

(7) 環境保全系統

- ・山間部や扇状地に広がる森林、まとまりのある農地、一級河川乳川、一級河川芦間川、一級河川高瀬川の河畔林などの緑は、気象緩和、大気浄化、水源のかん養など、区域全体の環境を形成するうえで重要な役割を果たしていることから、これらの緑を保全して良好な環境の維持を図る。
- ・地域の良好な生活環境を形成するために、市街地周辺に拠点となる公園・緑地の整備を推進する。
- ・屋敷林や社寺林など生活と密接な関係を築いてきた緑は、地域の環境を支える重要な

緑としてその保全を推進する。

- ・主要幹線道路、幹線道路沿いや工業地、商業地では、沿道や敷地内に周辺への影響を和らげる緑を配置し、周辺環境との調和を図る。
- ・山間部に広がる森林や河川沿い等の環境は、大型哺乳類などの多様な生物の生息地となっている。このような地域の環境を特徴付ける生物の生息地となる緑の保全と適切な管理に努める。
- ・自然的環境は生物多様性に配慮した整備又は保全を図る。

(イ) レクリエーション系統

- ・緑豊かな生活環境を形成することを目指し、生活に身近な公園及び地区や地域の拠点となる公園の整備を推進する。
- ・河川や道沿いに連続性のある緑や花の豊かな空間の整備を推進するとともに、公園などのオープンスペースを連続させた緑のネットワークの形成を図る。
- ・一級河川乳川等の河川敷では、緑を活かした親水空間を相互に結ぶ散策路等の整備を推進する。
- ・松川地域の馬羅尾高原では、緩傾斜の地形と森林を活かした自然体験型のレクリエーション施設の整備を推進する。施設は豊かな緑とふれあう拠点となることを目的とし、今ある自然環境に調和した施設づくりを進める。
- ・池田地域の東山山麓には、山麓の自然環境と緩傾斜を活かし、あづみ野池田クラフトパーク等の施設が整備されている。これらの施設を中心として、東山山麓一帯の自然環境と調和したレクリエーション利用を推進する。
- ・観光客の滞留や自然体験型のレクリエーションニーズに対応した国営アルプスあづみの公園の未整備エリアの整備を推進する。

(ウ) 防災系統

- ・市街地では災害時の住民の安全確保のため、あづみ野池田クラフトパーク、松川中央公園など避難地となるオープンスペースや避難経路を適切な位置に配置するとともに、積極的な緑化等による防災機能の充実を図る。

(エ) 景観構成系統

- ・広がりのある水田とそこに散在する屋敷林が創り出す、安曇野を特徴付ける田園景観、農地内を流れる河川とその河畔林が創り出す緑の帯、山麓部に広がる里山環境など、水と緑の豊かな景観の保全を図る。
- ・社寺林や遺跡を取り巻く緑、巨樹や巨木林など、地域の歴史ある景観を形成する緑の保全に努める。また、遺跡や巨木を中心に公園の整備や周辺の緑化等を推進し、より良い景観の形成を図る。
- ・市街地では、沿道、生け垣などの緑化によってうるおいのある都市景観の形成を目指す。
- ・長野県景観育成計画における沿道景観形成重点地域に指定されている一般国道 147 号

沿道は、景観計画に基づいた良好な景観の維持、育成を図る。

ウ 実現のための具体の目標及び都市計画制度の方針

(7) 公園緑地等の整備目標及び配置方針

本区域の特徴である緑豊かな田園環境と調和した市街地の形成を目指していることから、市街地及びその周辺に緑豊かな公園・緑地の整備を推進する。また、広域的なレクリエーションの拠点として国営アルプスあづみの公園（大町・松川地区）の未整備エリアの整備及び開園エリアの利用を促進する。

(4) 緑地保全地区等の指定目標及び指定方針

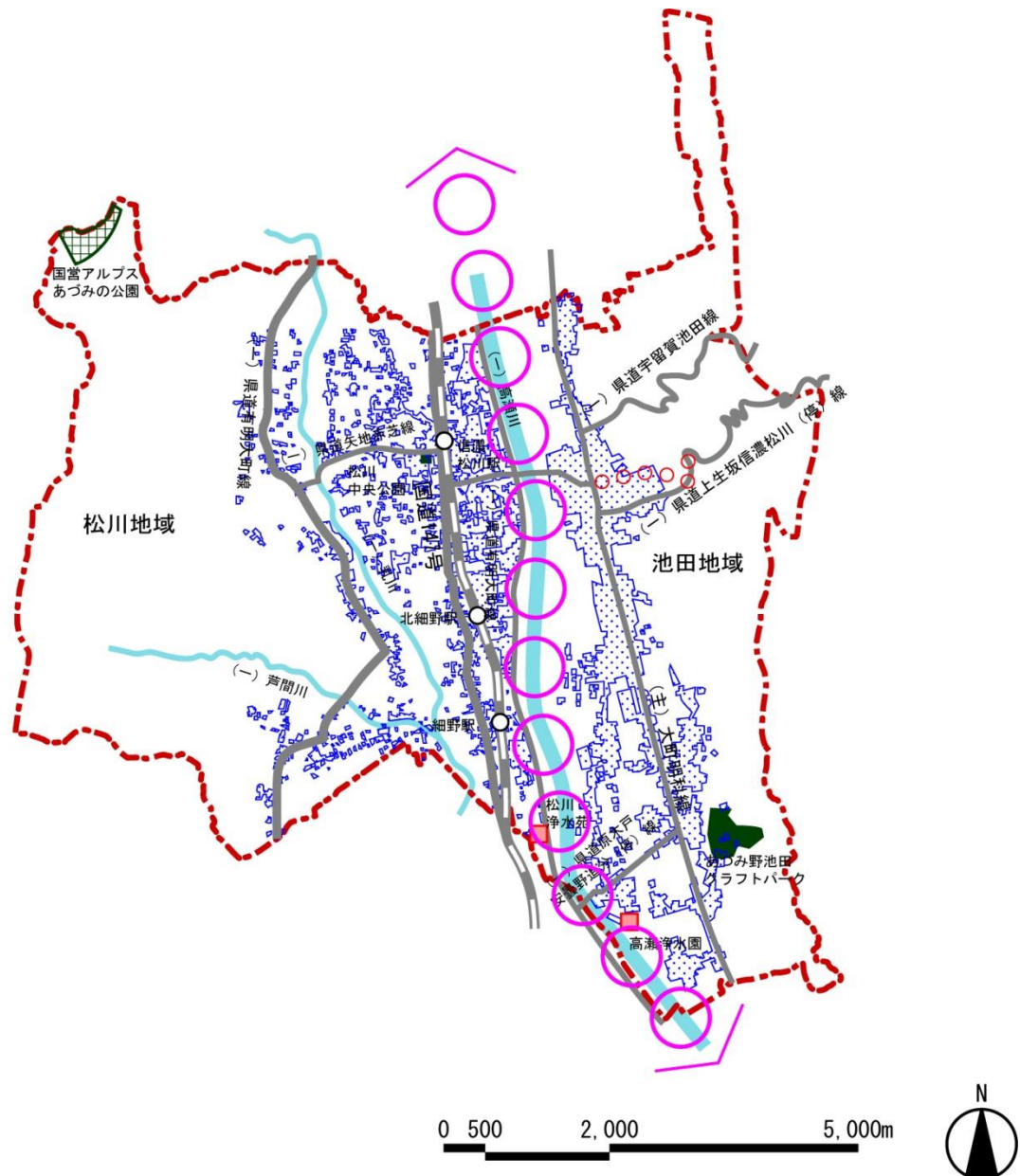
本区域の森林等のうち水源かん養、山地災害防止等の面で保全が必要な区域は、保安林等に指定されており、また、森林における大規模な開発等の動向も近年はないことから、風致地区や緑地保全地区の指定は行わず、当面はこれまでの規制による効果や課題を検証しつつ、良好な環境の保全に努める。

(ウ) その他

地区による景観形成住民協定の締結、県による景観形成重点地区や屋外広告物禁止地域の指定がされており、北アルプスや農地などの創り出す緑豊かな景観の保全に努めている。今後も、良好な景観の保全とそれに伴う緑の保全や創出を推進する。

- 長野県景観条例による景観形成住民協定地区
 - ・ 池田町相道寺地区（花菖蒲と陶芸の里）
 - ・ 池田町花見地区（花とホタルの里）
 - ・ 池田町半在家地区（花とアルプス一望の里）
 - ・ 池田町坂下地区（坂下地区自然と景観を守る）
 - ・ 松川村川西区（川西地区景観形成住民協定）
- 景観育成重点地域（一般国道 147 号の沿道両側 30m）
- 屋外広告物禁止地域（一般県道有明大町線（通称：北アルプスパノラマロード）の沿道両側 300m 区間）
- 松川村むらづくり条例に基づくむらづくり推進地区の指定

都市施設整備方針図（池田都市計画区域）



凡例

- | | |
|--------------------------|--|
| —— 主要幹線道路 | 公園・緑地※ ¹
(既設) |
| —— 幹線道路 | 公園・緑地※ ¹
(一部供用・整備中)
※ ¹ 4ha以上の都市公園 |
| ○○○○ 10年以内に整備着手
予定の路線 | 下水道区域 |
| == 鉄道 | 都市計画区域 |
| ○ 鉄道駅 | 地域高規格道路（構想路線）※ ² |
| ■ その他の都市施設 | |

※² 平成20年度長野県公表の地域高規格道路松本糸魚川連絡道路概要図

池田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（案） 新旧対照表

前回計画からの変更箇所を朱書き表示
神城断層地震による追記箇所を青書き表示

旧	新
<p>1. 都市計画の目標……………20</p> <p> (1) 都市計画区域の範囲と目標年次……………21</p> <p> (2) 都市づくりの基本理念……………21</p> <p> (3) 地域毎の市街地像……………24</p> <p>都市構造図（池田都市計画区域）……………28</p> <p>2. 区域区分の決定の有無及び区域区分の定める際の方針……………29</p> <p> (1) 区域区分の決定の有無……………29</p> <p> (2) 区域区分の方針……………32</p> <p>3. 主要な都市計画の決定の方針……………33</p> <p> (1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針……………33</p> <p> (2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針……………40</p> <p> (3) 自然的環境の整備または保全に関する都市計画の決定の方針……………46</p> <p>都市計画区域マスタープラン付図（池田都市計画区域）……………52</p>	<p>3 池田都市計画区域の都市計画の目標……………20</p> <p> (1) 都市計画区域の現状と課題……………20</p> <p> (2) 都市計画区域の範囲と目標年次……………21</p> <p> (3) 都市づくりの基本理念……………21</p> <p> (4) 地域毎の市街地像……………24</p> <p>都市構造図（池田都市計画区域）……………28</p> <p>4 区域区分の決定の有無及び区域区分の定める際の方針……………29</p> <p> (1) 区域区分の決定の有無……………29</p> <p> (2) 区域区分の方針……………32</p> <p>5 主要な都市計画の決定の方針……………33</p> <p> (1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針……………33</p> <p> (2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針……………40</p> <p> (3) 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針……………46</p> <p>都市施設整備方針図（池田都市計画区域）……………52</p>

旧	新
<p>池田都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の決定</p> <p>都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を次のように決定する。</p>	<p>池田都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更</p> <p>池田都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を次のように変更する。</p> <p>1 大北圏域の現状と課題</p> <p>(1) 圏域の現状</p> <p>大北圏域は長野県の北西に位置し、大田市、池田町、松川村、白馬村、小谷村の5市町村からなる。圏域西部には雄大な北アルプスがそびえ、その山麓から平坦部にかけて水田が広がる水と緑豊かな圏域である。夏は涼しく、冬は寒さが厳しい気候で、特に小谷村や白馬村、大田市北部では積雪が多い。その立地を活かした観光産業や農業、工業が主要な産業として地域の暮らしを支えてきている。</p> <p>圏域の都市計画区域は大田市計画区域、池田市計画区域、白馬都市計画区域の3区域により構成されており、大田市の一部が大田市計画区域、池田町と松川村の一部が池田市計画区域、白馬村の一部が白馬都市計画区域に指定されている。</p>

旧

新

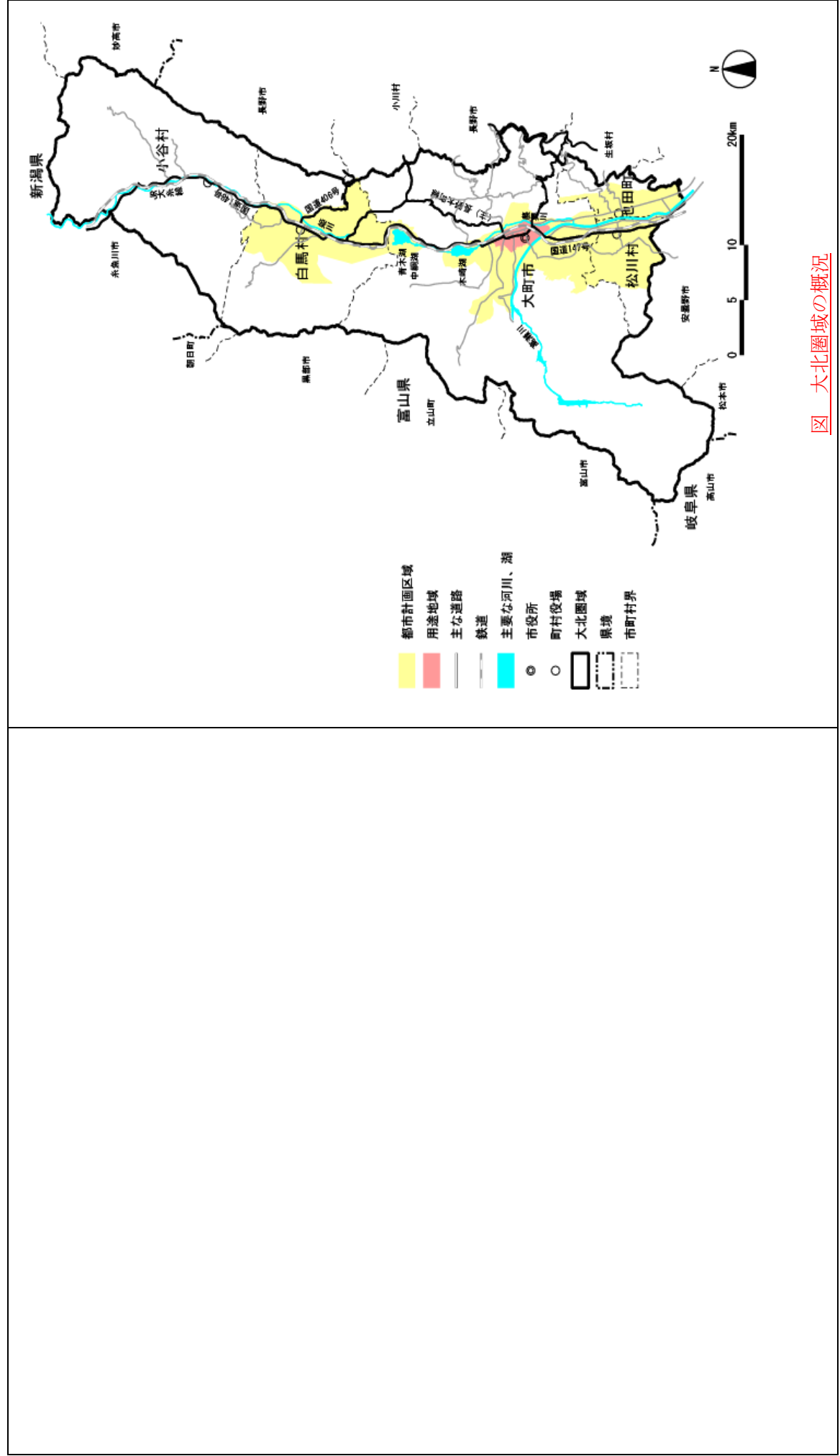
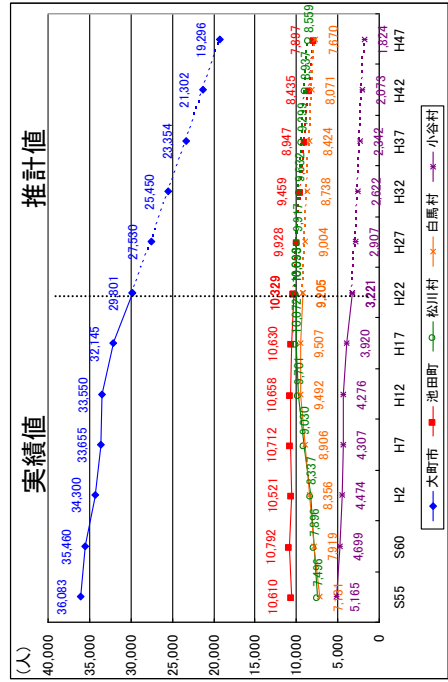


図 大北圏域の概況

ア 人口の動向

大北圏域の人口は、松川村では平成 22 年まで、白馬村では平成 17 年まで増加傾向がみられるが、全体的には減少傾向にある。また、圏域全体の高齢化率（平成 22 年国勢調査）は 29. 2%で、長野県の 26. 4%より高い値となっている。

圏域人口の推移と今後の見通し



資料：各年国勢調査

推計値は国立社会保障人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』

イ 市街化の動向

人口集中地区は大町市に 1 地区存在するが、その人口、面積、人口密度、行政区域人口に対する人口集中地区人口の割合は減少している。また、用途地域が指定されている大町市では、用途地域の指定のない区域での農地転用割合が高いなど、市街地のスプロール化が懸念される。

ウ 産業の動向

圏域全体の就業人口は31,447人で、第1次産業、第2次産業、第3次産業の就業人口の構成比は9.4%、27.3%、62.5%となっている。

製品出荷額は平成19年をピークに861億円から1,313億円の間で推移している。年間商品販売額は平成9年は1,277億円であったが平成19年には775億円に減少している。

表 産業3区分別就業人口

	人口（人）			構成比（%）		
	第1次産業	第2次産業	第3次産業	第1次産業	第2次産業	第3次産業
大町市	1,363	4,385	8,859	14.812	9.2	29.6
池田町	457	1,508	2,988	4.962	9.2	30.4
松川村	583	1,646	2,834	5.074	11.5	32.4
白馬村	311	724	3,810	4.854	6.4	14.9
小谷村	252	322	1,169	1.745	14.4	18.5
合計	2,966	8,585	19,660	31.447	9.4	27.3

資料：平成22年 国勢調査

エ 都市整備の状況

大北圏域は南北にJ R大糸線が延びており、信濃大町駅でおおむね1時間に1本間隔で運行している。広域的に幹線となる道路の南北軸は、北陸自動車道と長野自動車道を結ぶ一般国道147号、148号、東西軸は本圏域と上信越自動車道を結ぶ主要地方道長野大町線、一般国道406号等である。

施設としては、国営アルプスあづみの公園（都市計画決定 355.6ha）の内、254.7haが大町市と松川村で決定されており、平成21年に78.7haが開設され、平成25年には25haが追加開園されている。都市計画区域人口一人あたりの開設済都市公園面積は、長野県都市公園条例の設置基

旧	新
	<p> <u>準である10㎡以上となっている。都市計画道路は大町都市計画区域、白馬都市計画区域で17路線58.59kmが都市計画決定されており、改良率は県平均41.86%と比べ、38.93%と低い水準となっている。駅前広場はJＲ信濃大町駅の駅前交通広場3,500㎡とJＲ白馬駅の白馬駅前広場2,780㎡が決定され、整備済となっている。</u> </p> <p> オ 観光の動向 </p> <p> <u>大北圏域は登山、渓谷、スキー、温泉など、自然活用型の観光資源が豊富で、県外からの観光客や冬季の観光利用が多くなっている。しかし、スキー場利用者の減少などにより、冬季の観光利用の減少や宿泊客の減少、消費額の減少などの傾向がみられる。</u> </p> <p> <u>また、近年ではオセアニア地域、アジア地域などを中心とした海外からの観光客誘致に積極的に取り組んでいる。</u> </p> <p> カ 自然環境 </p> <p> <u>大北圏域内では中部山岳国立公園、上信越高原国立公園の二つの自然公園が指定されており、圏域の面積の33%(36,603ha)を占めている他、姫川源流(白馬村)・唐花見湿原(大町市)・角間池(小谷村)の3箇所が県自然環境保全地域に指定されている。</u> </p> <p> <u>また、圏域西部の北アルプスは槍ヶ岳の標高3,180mを最高点とする3,000m級の著名な高峰が連なる。また中央に広がる平坦地は標高700m内外である。佐野坂を分水界として、北は一級河川姫川水系、南は一級河川信濃川水系(一級河川高瀬川)に分かれ、本圏域はこの二つの水系の水源地域となっている。圏域内には仁科三湖をはじめとする湖沼や居</u> </p>

旧	新
	<p>谷里、唐花見などの湿原が点在している。</p> <p>林地開発許可状況をみると、平成 19 年から平成 23 年までの過去 5 年間の開発許可件数は 1 件であり、開発圧力は低い。</p> <p>キ 災害の危険性（自然災害）</p> <p>大北圏域東部は糸魚川－静岡構造線が走る北部フォッサマグナ地帯西縁に属している。北アルプス山岳地域やフォッサマグナ地域の急峻な山地より流れ出た土砂によって扇状地が形成されている。</p> <p>平成 26 年 11 月には、糸魚川－静岡構造線活断層系の一部である神城断層の一部とその北方延長が活動したと考えられる「長野県神城断層地震」が発生し、県内で最大震度 6 弱を観測した。この地震により、圏域内の建築物 341 棟が全半壊するなど住宅を中心とした建築物とともに、道路やライフラインなどの公共土木施設にも大規模な被害が生じた。</p> <p>圏域内の災害危険箇所として、土石流危険渓流 342 箇所、地すべり危険箇所 170 箇所、急傾斜地崩壊危険箇所 553 箇所が指定されている。また、土砂災害防止対策の推進に関する法律（土砂災害防止法）における土砂災害警戒区域は、土石流 400 箇所、地すべり 48 箇所、急傾斜地 1,055 箇所が指定されており、そのうち土砂災害特別警戒区域は、土石流 311 箇所、急傾斜地 924 箇所が指定されている。（平成 26 年 3 月 31 日現在）</p> <p>（2）大北圏域の現在の都市構造</p> <p>前述の大北圏域の現状より、圏域の現況の都市構造を以下のとおり整理する。</p> <p>ア 拠点</p>

旧	新
	<p><u>J R信濃大町駅周辺は圏域の中核となる市街地となっている。</u></p> <p><u>圏域内には登山、スキー場、渓谷、温泉地などの自然型の観光地が存在し、スキー場や温泉地周辺などには林間居住地も点在している。近年は国営アルプスあづみの公園が一部を残し開園となり、観光拠点の一つとなっている。また、一般国道沿いや主要地方道沿いには情報発信基地として道の駅が配置されている。</u></p> <p>イ 連携軸</p> <p><u>広域的な幹線軸として、南北軸は一般国道 147 号及び 148 号、東西軸は一般国道 406 号、主要地方道長野大町線があるが高速道路等がなく、高速交通網の空白地帯となっている。また、J R 大糸線が南北に伸びている。ただし、一般国道 148 号は迂回路が存在しない。</u></p> <p>ウ 土地利用</p> <p><u>圏域の山地の大部分を森林が占めており、まとまった農地は圏域南部に広がっている。</u></p> <p><u>市街地は J R 信濃大町駅や J R 信濃松川駅、J R 白馬駅周辺及び主要地方道大町明科線沿道を中心に、一般国道沿いや主要地方道沿いに形成されている。</u></p> <p><u>山間地では農地や集落が散在しているが、都市計画区域には指定されていない地域がある。</u></p>

北圏域現況構造図

土地利用の区分

- 自然地域（国有林・保安林等）
- 森林・林業地域（地域森林計画対象国有林等）
- 林間居住・別荘地
- 観光地（自然型）
- 農業地域（農業振興地域農用地区域等）
- 中心市街地・商業地
- 観光地（都市型）
- 一般市街地
- 集落地

主な都市施設等

- 広域幹線道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路
- 鉄道
- 主要な河川、湖
- 行政区域
- 都市計画区域

旧	新
	<p data-bbox="247 813 279 1086">(3) 圏域の主要課題</p> <p data-bbox="295 123 422 1086">前述の大北圏域の現状及び大北圏域の現在の都市構造を踏まえるとともに、近年の都市を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、大北圏域全体にわたる広域的・共通的課題を次のように整理する。</p> <p data-bbox="486 880 518 1019">ア 市街地</p> <ul data-bbox="534 123 805 1019" style="list-style-type: none"> ○ <u>中心市街地の衰退・空洞化、市街地周辺でのスプロール化の進行。</u> <u>圏域内で比較的雪の少ない場所への人口の移動</u> ○ <u>市街地活性化方策の工夫</u> ○ <u>狭あいな道路環境や、オープンスペースが少ないなど市街地の快適性</u> ○ <u>老朽木造住宅など建築物の耐震化</u> <p data-bbox="869 851 901 1019">イ 自然環境</p> <ul data-bbox="917 123 1149 1019" style="list-style-type: none"> ○ <u>生物の多様性、良質な水を育む北アルプス一帯及びその山麓の里山や水田等の良好な自然環境の維持</u> ○ <u>山地災害の発生が多い地形条件を踏まえた安全・安心の確保</u> ○ <u>林業の採算性の悪化を背景に手入れ不足の里山が増加</u> ○ <u>野生鳥獣による農産物等への被害が増加</u> <p data-bbox="1212 824 1244 1019">ウ 農村・集落</p> <ul data-bbox="1260 123 1380 1019" style="list-style-type: none"> ○ <u>山居集落が広がる平坦地において、後継者不足などを背景とした農業振興地域内農用地・区域外農地に対する宅地のスプロール化が進む</u>

旧	新
	<p> <u>○ 20 年後の農業と農地の維持</u> <u>○ 災害時における中山間地の危険、老朽木造住宅など建築物の耐震化</u> <u>○ 人口減少の抑制とコミュニティの維持</u> </p> <p> エ 田園・林間居住地 </p> <p> <u>○ 郊外の田園居住に対するニーズの高まりに伴う、住居と農地の混在、それに伴うインフラ整備の増加</u> <u>○ 別荘地への定住に伴う公共サービス等の連携の必要性、別荘地の空洞化抑制の検討</u> </p> <p> オ 観光資源 </p> <p> <u>○ 県外からの来訪者、宿泊利用者の減少による交流人口（※）・観光収入の減少</u> <u>○ 通年型観光、観光拠点間の連携による周遊型観光メニユーの不足、海外からの観光客の誘致</u> <u>（※）交流人口：互いに行き来する人の数</u> </p> <p> カ 交通体系 </p> <p> <u>○ 北部地域の生活の幹線でもある一般国道 148 号での長距離の物資輸送を目的とした大型車の比率が高く、騒音の問題等が発生</u> <u>○ 災害時の道路寸断、代替経路不足による集落の孤立等の危険</u> <u>○ 広域的な交流、産業振興、防災機能向上、高速交通網の整備等の面からみた、高速交通網等広域的な幹線機能の不足</u> <u>○ 地域公共交通の維持・強化</u> </p>

旧	新
	<p>2 大北圏域の都市計画の目標</p> <p>(1) 圏域の基本理念</p> <p>大北圏域の主要課題を踏まえ、本圏域が一体として圏域づくり・まちづくりに取り組むため、大北圏域の将来像と基本理念、都市づくりの目標を次のように設定する。</p> <p>【将来像】</p> <p>雄大な自然と共に歩み、心安らぐ美しいまちを目指して</p> <p>【基本理念】</p> <p>地域の風土を活かし、人を育て、知恵と工夫で次世代に贈るまちづくり</p> <p>【基本方針】</p> <p>方針1 みんなの元気で育むぬくもりと魅力のあるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 住民参加や提案型まちづくりによる市街地活性化を推進する ○ 大北の風土を身近に実感できるまちづくりを推進する ○ 水と緑を活かした美しいまちを整備する ○ 住民ニーズに応じた住みよさを実感できるインフラを整備する(克雪、防災等に配慮した都市基盤の充実) ○ 歩行者や自転車重視した安心して歩けるまちづくりを推進する ○ 空き店舗の活用など、まちづくり機運の醸成等を推進する ○ 建築物の耐震化など、大規模災害に備えた災害に強いまちづくりを推進する

旧	新
	<p>方針2 <u>北アルプスに育まれた水と緑豊かな環境の保全</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>身近な自然環境の保全や水と緑に親しむ環境をつくる</u> ○ <u>山地災害や水害等の災害からの安全を確保する</u> ○ <u>低炭素社会の実現に向けたまちづくりを推進する</u> ○ <u>生物の多様性を保全する</u> ○ <u>優れた自然環境を保全する（自然公園の保全）</u> ○ <u>里山など身近な森林の整備等により森林の機能を強化する</u> <p>方針3 <u>地域資源を活かした特色ある田園・山村づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>北アルプスを背景に広がる田園景観の保全に向けた広域的な土地利用を検討する</u> ○ <u>農業振興策と連携し、農地を保全する</u> ○ <u>住みよい集落の実現のための生活基盤整備を推進する</u> ○ <u>後継者育成、体験農業の推進により地域の活力を向上する</u> ○ <u>耕作放棄地を抑制し、田園景観を維持する</u> ○ <u>野生鳥獣被害対策を進め、野生鳥獣との緊張感ある棲み分けを図られた集落をつくる</u> ○ <u>伝統的な景観の保全への支援を進める</u> <p>方針4 <u>緑に抱かれたゆとりある暮らしの実現</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>緑とふれあいながら暮らすゆとりのある居住環境をつくる</u> ○ <u>多様なニーズや景観保全に配慮し、質の高い別荘地への再生を図る（空き別荘などの有効活用を検討等）</u> ○ <u>居住者による協定等により林間居住地の良好な環境を保持する</u>

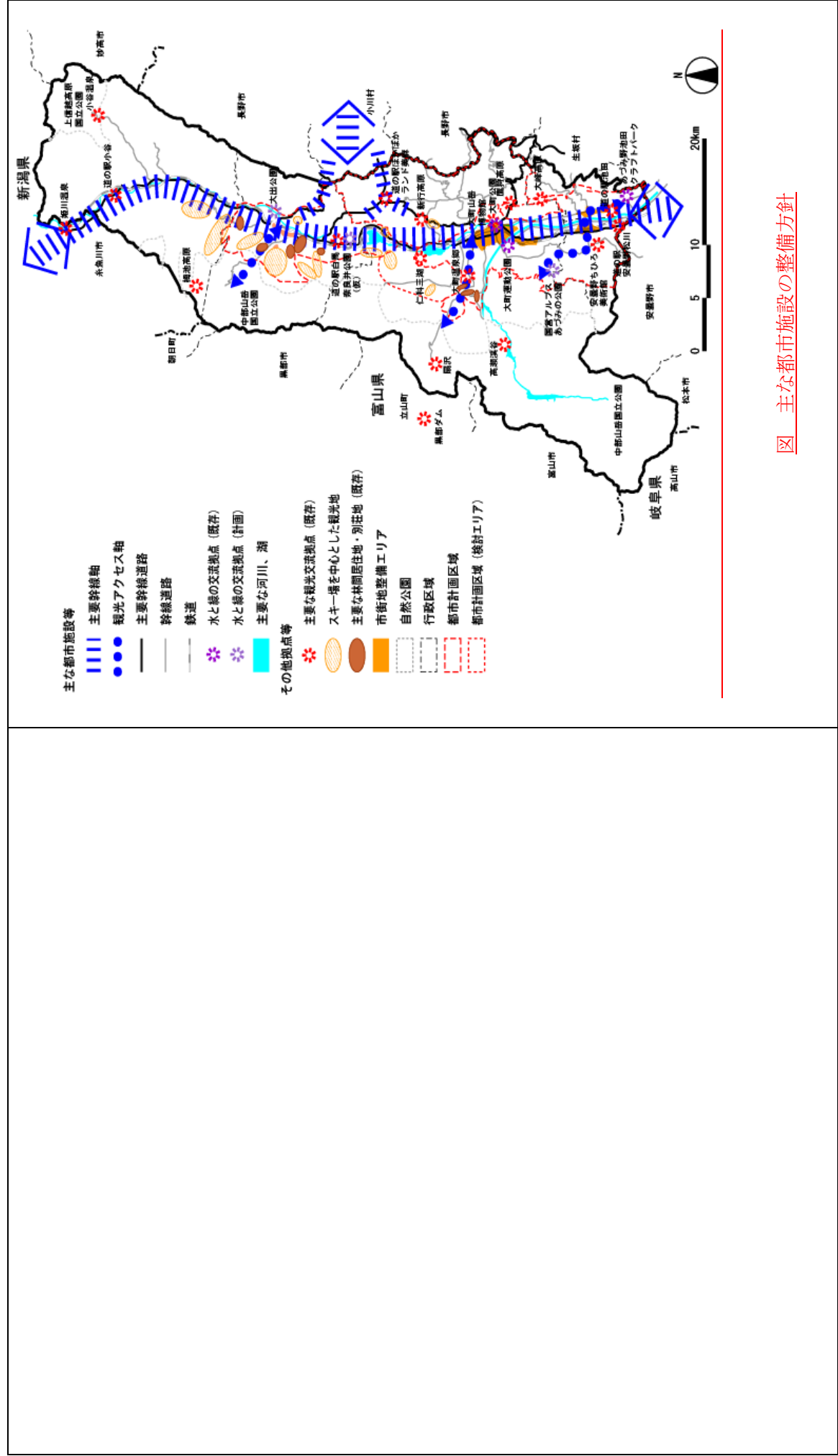
旧	新
	<p>方針5 <u>質の高い観光ネットワークによる体験交流空間の創出</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>ゆとりのある余暇利用や滞在型観光を支える移動手段を創出する</u> (自転車、徒歩等) ○ <u>身近な自然を活かした体験交流拠点を形成する</u> ○ <u>協定等の締結により観光拠点の良好な景観を形成する</u> ○ <u>農林業との連携による宿泊・体験型観光振興への取り組みを推進する</u> <p>方針6 <u>山と海の交流を深める新時代の塩の道づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>安全性、環境面、防災面に配慮した幹線道路や大都市、圏域外との交流ルートの機能を強化する</u> ○ <u>災害時の代替交通機能の確保を図る</u> ○ <u>基幹産業の振興や住民の生活を支える幹線交通網を充実する</u> ○ <u>千国街道等地域の歴史や文化を実感できる散歩道等を伝承する</u> ○ <u>良好な沿道景観の形成に関する広域的な取り組みを推進する</u> <p>(2) <u>圏域の将来都市構造</u></p> <p><u>基本理念の基に圏域の将来像を実現するため、大北圏域の将来都市構造を次のように設定する。</u></p> <p><u>北アールプスの雄大な山岳や豊かな森林、山麓の平坦地にまとまって農地の広がるエリア等の良好な環境を保全するとともに、市街地は各市町村の既存市街地の一帯に集約していく。</u></p> <p><u>あわせて、南北の幹線道路を圏域の軸としてその機能を強化しながら、この軸と市街地や周辺の資源との結びつきを強化していく道路整備、豊かな自</u></p>

旧	新
	<p><u>然や里山を活かした公園整備等を進め、圏域の雄大な自然と共に歩みながら、魅力のある圏域づくりを目指す。</u></p> <p><u>また、都市施設の整備にあたっては、糸魚川―静岡構造線活断層帯の情報</u> <u>を考慮したうえで、施設の配置や構造等を検討する。</u></p> <p>ア 拠点</p> <p>○ <u>市街地・既存の集落</u></p> <p><u>既成市街地や既存集落への集約を図るとともに、自然災害による被害の抑止、軽減を図り、災害に強いまちづくりを進めるため、避難路となる道路や一時避難所となる公園等の公共施設の整備を進めるとともに、住宅や避難施設、多数の者が使用する建築物等の耐震化を図る。</u></p> <p>○ <u>公園・緑地（水と緑の交流拠点）</u></p> <p><u>北アルプスの豊かな自然に育まれた本圏域の特徴を踏まえ、身近に水や緑を実感できるまちを実現させていくため、圏域内の里山や水辺などの資源を活かして、緑や水辺とふれあうことのできる交流の拠点を形成していく。</u></p> <p>○ <u>河川、湖</u></p> <p><u>本圏域を流れる一級河川高瀬川、一級河川姫川の二つの大きな河川と仁科三湖は、圏域全体の環境の骨格として考えることができる。これらの水域に支流の河川や水路などを加え、上流、下流の關係に留意した水辺の保全・活用を推進するとともに、水辺の連続性や災害等からの安全性の確保に努める。</u></p> <p>○ <u>主要な観光交流拠点、スキー場を中心とした観光地、主要な林間居住地・別荘地</u></p>

旧	新
	<p><u>圏域内にある観光地、別荘地については国際化への対応を進める。また、拠点性のさらなる向上や情報の連携、サイクリングや外国人観光客のための乗り合いバスの運行等多様な移動手段の確保などにより、相互のネットワークを強化する。</u></p> <p>イ 連携軸</p> <p>○ <u>主要幹線軸</u></p> <p><u>市街地の活性化、圏域内の生活の利便性の向上、商工業、観光等の産業の発展及び災害や救急医療等非常時における緊急輸送路の確保等に配慮した道路ネットワークの形成を図るため、「地域高規格道路松本糸魚川連絡道路」などの圏域間を広域的に結ぶ主要幹線軸の機能強化を図る。</u></p> <p>○ <u>観光アクセス軸</u></p> <p><u>本圏域には、北アルプスに育まれた様々な自然資源を活かした観光拠点がある。白馬・樺池方面、立山黒部方面、大町温泉郷・高瀬渓谷方面、安曇野方面など特に多くの利用者に親しまれている拠点に通じる道路は、圏域の特徴を活かした観光である自然体験、交流を深めるうえで重要な役割を担うアクセスルートとしてその機能の充実を図る。</u></p>

旧

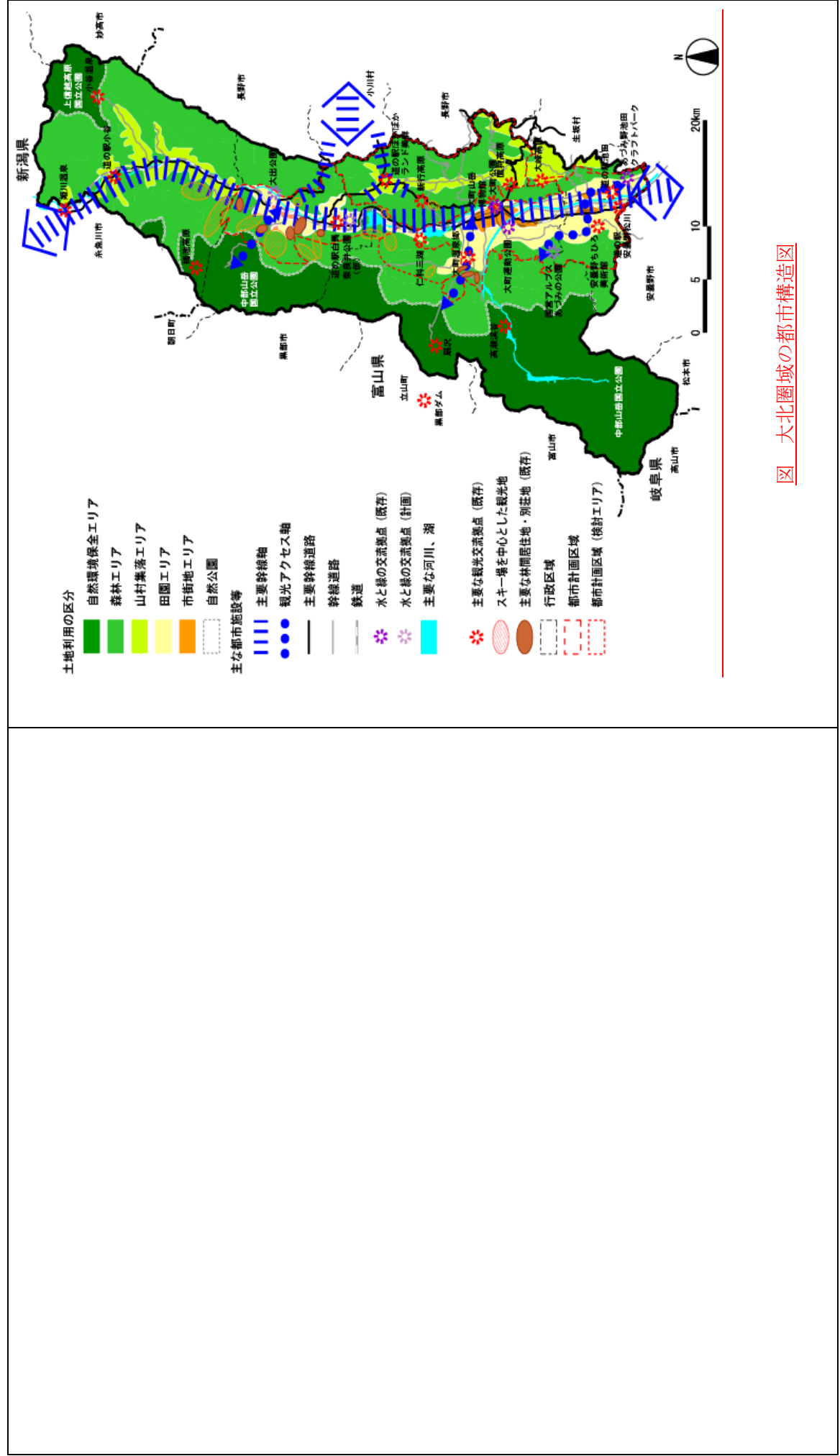
新



旧	新
	<p>ウ 土地利用</p> <p>○ <u>優れた自然環境の保全</u></p> <p><u>圏域の東西両縁に広がる森林を保全し、良好な自然環境を維持していく。このうち、西側の北アルプス一帯は、現在の環境を原則保持するエリアとする。なお、利用にあたっては自然環境の状況に応じた適正な利用を図るものとする。</u></p> <p>○ <u>人と自然の共生による良好な環境の保全</u></p> <p><u>北アルプスの山麓や麓の森林はスキー場などが位置することから人の活動と森林の保全のバランスのとれた共生を目指すエリアとする。また、東山の山間部には里山と集落が一体となって、農林業と自然環境との調和した区域がみられる。この区域の環境を持続するとともに、集落の生活基盤の充実を図る。</u></p> <p><u>面的な農地の広がりの中に集落の散在する北アルプス山麓の平坦地の区域には、田園景観が広がっている。このエリアは農業を持続し、この景観を保全していくエリアとして位置付ける。</u></p> <p>○ <u>適正な土地利用の推進</u></p> <p><u>市街地は、用途地域や既存の市街地を中心とした一定のエリアにコンパクトに集積させていくことで、自然環境や田園の保全とのバランスを保つとともに、道路や公園等のオープンスペースの整備、建物の更新にあわせた耐震化・不燃化を促進し、防災性の高い土地利用を推進する。</u></p>

旧

新



旧	新
<p>1. 都市計画の目標</p> <p>本計画は、都市づくりに対する合意形成の促進を図るため、池田都市計画区域を対象として、県が広域的見地から、関係市町村や住民の意向を反映しながら、都市計画の目標とその実現に向けた都市計画の基本的な方針を示すものがある。</p> <p>(1) 都市計画区域の範囲と目標年次</p> <p>① 都市計画区域の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 都市計画区域の名称：池田都市計画区域 ◆ 対象市町村：池田町、松川村 ◆ 範囲：池田町の一部（池田地域）および松川村の一部（松川地域） <p>② 目標年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画の基本的な方向 平成32年 ・ 都市施設などの整備目標 平成22年 	<p>3 池田都市計画区域の都市計画の目標</p> <p>(1) 都市計画区域の現状と課題</p> <p>池田都市計画区域の位置する池田町、松川村は、ともに、北アルプスの山並みを背景にし、豊かな広がりをもつ水田と緑豊かな屋敷林とが調和した、安曇野特有の田園景観が維持されている。</p> <p>このような景観の広がる両地域での暮らしは、水田農業を基盤とし、集落単位のまとまりが古くからの生活の基盤であった。しかし、長野自動車道、北アルプスパノラマロード（一般県道有明大町線）の開通に伴い、首都圏や中京圏との時間距離が短縮されたことから、住民の生活様式も都市型に変化してきている。近年、価値観の多様化から、良好な自然環境や景観を求めて都市部から本区域へ移住することへのニーズは高まる傾向にある。</p> <p>今後は、環境に配慮したまちづくりの重要性や、農業維持と市街地整備のバランスを確保した土地利用の実現に取り組んでいくことが重要である。</p> <p>このため、池田都市計画区域の広域的な位置付けを踏まえ、都市計画の目標とその実現に向けた基本的な方針を以下に示す。</p> <p>(2) 都市計画区域の範囲と目標年次</p> <p>① 都市計画区域の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 都市計画区域の名称：池田都市計画区域 ◆ 対象市町村：池田町、松川村 ◆ 範囲：池田町の一部（池田地域）及び松川村の一部（松川地域） <p>② 目標年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 都市計画の基本的な方向 平成42年 ◆ 都市施設などの整備目標 平成32年

旧	新
<p>(2) 都市づくりの基本理念</p> <p>本区域の位置する池田町、松川村は、ともに、北アルプスの山並みを背景にし、豊かな広がりをもつ水田と緑豊かな屋敷林とが調和した、安曇野特有の田園景観が維持されている。</p> <p>このような景観の広がる両地域での暮らしは、水田農業を基盤とし、集落単位のまとまりが古くからの生活の基盤であった。しかし、長野自動車道、北アルプスパノラマロードの開通に伴い、首都圏や中京圏との時間距離が短縮されたことから、人口、世帯数も増え、住民の生活様式も都市型に変化してきている。近隣の松本や大町などでは、核家族化が進んでおり、良好な自然環境や景観を求めて本区域へ居住することへのニーズは高まる傾向にある。</p> <p>このため、環境に配慮したまちづくりの重要性や、農業維持と市街地整備のバランスを確保した土地利用の実現に取り組んでいくことが重要である。</p> <p>以上を踏まえ、本区域では、豊かな緑と景観に育まれたすみよい居住地としての機能を重視したまちづくりに両地域一体で取り組むことを、当面 10 年間の都市づくりの理念として設定し、以下の目標像を掲げる。</p> <div data-bbox="1059 1292 1134 2040"> <p>目標像：美しい安曇野の田園に育まれた安らぎとゆとりのまち</p> </div> <p>以下に、目標像を実現させていくうえでの都市づくりの方向性、土地利用の方針、都市施設整備の方針をそれぞれ整理する。なお、本区域に指定されている池田町と松川村は、高瀬川の両岸に位置しており、それぞれの産業の発展や土地利用の状況等に違いがある。</p>	<p>(3) 都市づくりの基本理念</p> <p>本区域では、豊かな緑と景観に育まれたすみよい居住地としての機能を重視したまちづくりに両地域一体で取り組むことを、当面 10 年間の都市づくりの理念として設定し、以下の目標像を掲げる。</p> <div data-bbox="1059 293 1134 1019"> <p>目標像：美しい安曇野の田園に育まれた安らぎとゆとりのまち</p> </div> <p>以下に、目標像を実現させていくうえでの都市づくりの方向性、土地利用の方針、都市施設整備の方針をそれぞれ整理する。なお、本区域に指定されている池田町と松川村は、一級河川高瀬川の両岸に位置しており、それぞれの産業の発展や土地利用の状況等に違いがある。</p>

旧	新
<p>このことから、上記の目標像をふまえながら、それぞれの地域ごとに整理する。</p> <p>【池田地域】</p> <p>① 眺めをいかした安らぎを実感できる田園居住エリアとしてのまちづくり</p> <p>池田地域は、面的な農地の広がり有し、東山の麓から、良好な北アルプスの眺望を享受できる地域である。住民生活の面においても、大町や豊科・松本などとの結びつきも深く、冬季の積雪も少ない。これらの特性を活かし、美しい眺めのなかですみよさを実感できる居住空間としての機能に優れたまちの整備を計画的に推進する。</p> <p>② 里山、田園と居住環境の良好な共存を目指した土地利用の推進</p> <p>良好な田園や山岳景観の保全と、住宅地の整備のバランスを図るため、高瀬川左岸一帯の優良農地の保全、農振白地における計画的な居住地の誘導を図る。また、クラフトパーク等東山麓の里山の利活用を図り、良好なレクリエーション機能を兼ね備えた居住環境を形成する。</p> <p>③ 快適な居住環境を支える都市施設の整備</p> <p>公園や道路等の充実により、居住環境の快適さの向上や防災機能の強化などを図り、高齢者や新たな居住者等に配慮し、すみよさを実感できるまちを形成する。</p>	<p>このことから、上記の目標像を踏まえながら、それぞれの地域毎に整理する。</p> <p>【池田地域】</p> <p>① 眺めを活かした安らぎを実感できる田園居住エリアとしてのまちづくり</p> <p>池田地域は、面的な農地の広がり有し、東山麓から、良好な北アルプスの眺望を享受できる地域である。住民生活の面においても、大町や豊野・松本などとの結びつきも深く、冬季の積雪も少ない。これらの特性を活かし、美しい眺めの中で住みよさを実感できる居住空間としての機能に優れたまちの整備を計画的に推進する。</p> <p>② 里山、田園と居住環境の良好な共存を目指した土地利用の推進</p> <p>良好な田園や山岳景観の保全と生物多様性への配慮、住宅地の整備のバランスを図るため、一級河川高瀬川左岸一帯の優良農地の保全、農業振興地域内農用地区域外農地における計画的な居住地の誘導を図る。また、あづみ野池田クラフトパーク等東山麓の里山の利活用を図り、良好なレクリエーション機能を兼ね備えた居住環境を形成する。</p> <p>③ 快適な居住環境を支える都市施設の整備</p> <p>池田地域では主要地方道大町明科線沿いに商業施設が進出するなど、今後無秩序な開発が予想され、これらを計画的に規制誘導するため、「池田町の土地利用及び開発指導に関する条例」を制定している。この条例を基に、公園や道路等の充実により、居住環境の快適さの向上や防災機能の強化な</p>

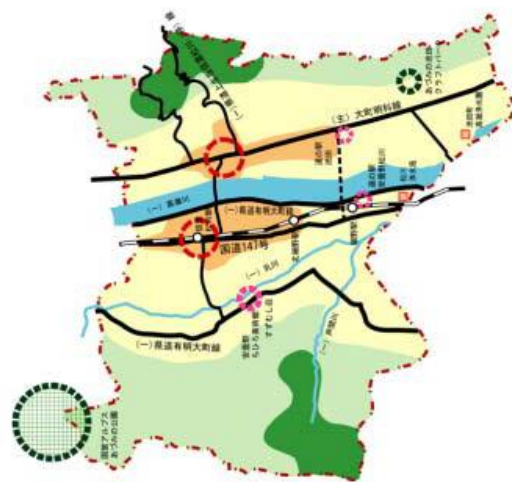
旧	新
<p>どを図り、高齢者や新たな居住者等に配慮し、<u>住みよさ</u>を実感できるまちを形成する。</p> <p>【松川地域】</p> <p>① 安曇野の原風景を大切にしたいまちづくり</p> <p>松川地域は、大北圏域の<u>なか</u>でも面的な水田の広がりとその中に屋敷林等の緑が散在する安曇野の景観を色濃く残している場所として知られている。そこで松川地域では、この景観とそれらを生み出す環境や風土との調和に留意した、原風景を大切にしたいまちづくりを<u>基本と考える</u>。</p> <p>② 広がりのある田園の環境を持続できる土地利用の推進</p> <p>松川地域は、<u>村西部</u>に広がる森林と、中部に広がる田園景観、東部の市街地・住宅地の3つの特徴的なエリアで形成されている。松川地域の土地利用では、西部の森林の保全、中部の優良農地における無秩序な開発の抑制と田園景観の保全、東部の田園景観と調和した<u>すみよい市街地</u>の形成を推進する。</p> <p>③ 生活環境を支える都市施設の計画的な整備</p> <p>松川地域は、<u>県内でも人口の増加率の高い地域の一つ</u>で、宅地整備、商業施設の進出等による無秩序な開発等が予想され、これらを計画的に規制誘導するため松川村むらづくり条例を制定している。このような条例と共に、これまでの生活環境保全との調和を図り、住民が安心して快適に暮らせる公園や道路などの都市施設、地域の活性化や生活環境の向上に資する基盤整備を一層進める。</p>	<p>どを図り、高齢者や新たな居住者等に配慮し、<u>住みよさ</u>を実感できるまちを形成する。</p> <p>【松川地域】</p> <p>① 安曇野の原風景を大切にしたいまちづくり</p> <p>松川地域は、大北圏域の<u>中</u>でも面的な水田の広がりとその中に屋敷林等の緑が散在する安曇野の景観を色濃く残している場所として知られている。そこで松川地域では、この景観とそれらを生み出す環境や風土との調和に留意した、原風景を大切にしたいまちづくりを<u>推進する</u>。</p> <p>② 広がりのある田園の環境を持続できる土地利用の推進</p> <p>松川地域は、西部に広がる森林と、中部に広がる田園景観、東部の市街地・住宅地の3つの特徴的なエリアで形成されている。松川地域の土地利用では、西部の森林の保全、<u>生物多様性への配慮</u>、中部の優良農地における無秩序な開発の抑制と田園景観の保全、東部の田園景観と調和した<u>住みよい市街地</u>の形成を推進する。</p> <p>③ 生活環境を支える都市施設の計画的な整備</p> <p>松川地域は、<u>計画的な土地利用を規制誘導するため「松川村むらづくり条例」を制定し</u>、宅地整備、商業施設の進出等による無秩序な開発等を<u>抑制している</u>。これまでの生活環境保全との調和を図り、住民が安心して快適に暮らせる公園や道路などの都市施設、地域の活性化、<u>防災機能</u>や生活環境の向上に資する基盤整備を一層進める。</p>

旧	新
<p>(3) 地域毎の市街地像</p> <p>本区域を池田地域と松川地域に分け、地域毎の市街地像を整理する。</p> <p>【池田地域】</p> <p>池田地域は、池田北部地域と池田南部地域の2つに区分される。このうち、池田地域の中心市街地を形成しているのは、池田北部地域の主要地方道大町明科線沿いである。</p> <p>① 池田北部地域</p> <p>本地域のなかでも主要地方道大町明科線沿いには住宅、店舗などが集積し、また、ここには役場や学校などの公共施設も立地しており、池田町の中心市街地が形成されている。区域の中心市街地としての機能をより高めていくため、道路や下水道等の都市施設の整備を行い、住民の利便性、快適性の向上を図る。</p> <p>② 池田南部地域</p> <p>池田南部地域では、まとまりのある農地のなかに集落等の散在する土地利用が広がり、良好な田園景観が維持されている。地域内の主要幹線（主要地方道大町明科線、一般県道原木戸安曇追分停車場線）沿いでは、北アルプスの眺望確保、田園景観との調和に配慮した市街地の形成を図る。また、住宅や工場等の立地にあたっては、農地転用を最小限にとどめ、農地</p>	<p>(4) 地域毎の市街地像</p> <p>本区域を池田地域と松川地域に分け、地域毎の市街地像を整理する。</p> <p>【池田地域】</p> <p>池田地域は、池田北部地域と池田南部地域、池田東部山麓地域の3つに区分される。このうち、池田地域の中心市街地を形成しているのは、池田北部地域の主要地方道大町明科線沿いである。</p> <p>① 池田北部地域</p> <p>本地域の<u>中</u>でも主要地方道大町明科線沿いには住宅・店舗などが集積し、また、ここには役場や学校などの公共施設も立地しており、池田町の中心市街地が形成されている。<u>近年中心市街地では空き店舗・空き家が増加しており、その対策が急務となっている。</u>区域の中心市街地としての機能をより高めていくため、「<u>池田町土地利用調整基本計画</u>」で定めた市街地形成地域、産業振興地域、田園環境保全地域、田園環境活用地域の<u>区分に従った土地利用を促し、また、公共施設や道路、下水道等の都市施設の整備を行い、住民の利便性、快適性の向上、中心市街地のにぎわいの再生を図る。</u></p> <p>② 池田南部地域</p> <p>池田南部地域では、まとまりのある農地の<u>中</u>に集落等の散在する土地利用が<u>多くみられ</u>、良好な田園景観が維持されている。地域内の主要幹線（主要地方道大町明科線、一般県道原木戸安曇追分停車場線）沿いでは、北アルプスの眺望確保、田園景観との調和に配慮し、「<u>池田町土地利用調整基本</u></p>

旧	新
<p>の保全に努めるとともに、田園景観に配慮した土地利用を推進する。</p> <p>③ 池田東部山麓地域</p> <p>池田東部山麓地域では、山麓に沿って古い集落や新しい住宅団地がみられる。ここからは北アルプスとその麓に広がる安曇野の田園景観を一望することができ、このような良好な眺望を活かすとともに、山麓部の荒廃が進む農地の有効利用を図りながら、自然とふれあうことのできる緑豊かな居住環境の形成を推進する。</p> <p>【松川地域】</p> <p>松川地域は、松川西部地域、松川中部地域、松川東部地域の3つに区分される。</p> <p>中心市街地は、松川東部地域の一般国道147号と一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いに形成されている。</p> <p>① 松川東部地域</p> <p>松川東部地域は、一般国道147号の東側に位置する住宅地と商業地、工業地などがみられる地域である。</p> <p>ここでは、一般国道147号及び一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いに</p>	<p><u>計画」で定めた田園環境保全地域、田園環境活用地域の区分に従った土地利用を図る。</u>また、住宅や工場等の立地にあたっては、農地転用を最小限にとどめ、農地の保全に努めるとともに、田園景観に配慮した土地利用を推進する。</p> <p>③ 池田東部山麓地域</p> <p>池田東部山麓地域では、山麓に沿って古い集落や新しい住宅団地がみられる。ここからは北アルプスとその麓に広がる安曇野の田園景観を一望することができ、このような良好な眺望を活かすとともに、山麓部の荒廃が進む農地の有効利用を図りながら、<u>「池田町土地利用調整基本計画」で定めた田園環境保全地域、山麓集落地域、里山空間保全・活用地域、山村集落地域の区分に従った土地利用を促し、</u>自然とふれあうことのできる緑豊かな居住環境の形成を推進する。</p> <p>【松川地域】</p> <p>松川地域は、松川西部地域、松川中部地域、松川東部地域の3つに区分される。</p> <p>中心市街地は、松川東部地域の一般国道147号と一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いに形成されている。</p> <p>① 松川西部地域</p> <p><u>松川西部地域は、主として一級河川乳川の西側に位置し、安曇野の田園景観を形成する広がりのある農地と山麓部の森林があることから、これらを保全して良好な環境を維持することを基本とする。</u></p>

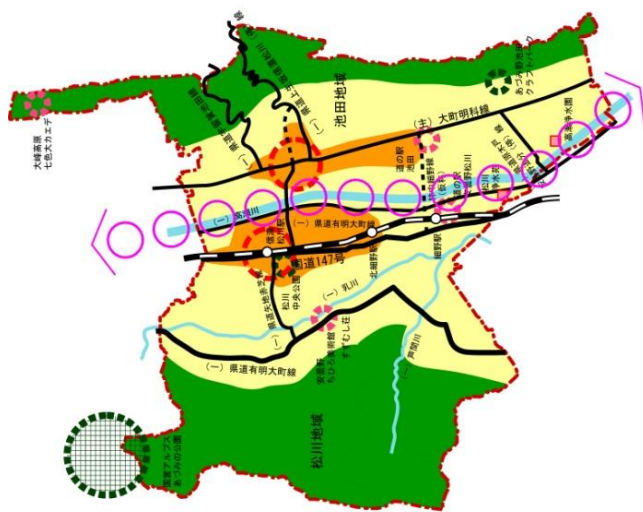
新	旧
<p><u>宅地や公園等公共施設、観光施設は、一般県道有明大町線（通称：山麓線）沿いの集落や既存施設の周辺に配置し、周辺景観との調和に努める。</u></p> <p>② 松川中部地域</p> <p>松川中部地域は、松川東部地域と松川西部地域との間に位置し、水田の<u>広がりの中</u>に集落が点在する地域である。このような農業を基盤とする土地利用を維持する。</p> <p>宅地の整備は、集落の中<u>及び</u>周辺に集約し、まとまりのある農地の保全、田園景観との調和に配慮する。</p> <p>③ 松川東部地域</p> <p><u>松川東部地域は、一般国道 147 号の東側に位置する住宅地と商業地、工業地などがみられる地域である。</u></p> <p><u>ここでは、一般国道 147 号及び一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いに商業を中心とした施設を集約する。また、北東部に産業創造の拠点が設定されており、新たな産業の創出に関連する施設はこれらの区域に集約を図るなど、商業、工業、宅地のおおむねのゾーン区分を行い、計画的に市街地の形成を進める。</u></p> <p><u>これとあわせ、公園や緑地帯等の整備を推進し、水と緑あふれる市街地の形成に努める。</u></p>	<p><u>商業を中心とした施設を集約する。また、北東部に産業創造の拠点が設定されており、新たな産業の創出に関連する施設はこれらの区域に集約を図るなど、商業、工業、宅地の概ねのゾーン区分を行い、計画的に市街地の形成を進める。</u></p> <p><u>これとあわせ、公園や緑地帯等の整備を推進し、水と緑あふれる市街地の形成に努める。</u></p> <p>② 松川中部地域</p> <p>松川中部地域は、松川東部地域と松川西部地域との間に位置し、水田の<u>広がりの中</u>に集落が点在する地域である。このような農業を基盤とする土地利用を維持する。</p> <p>宅地の整備は、集落の中<u>および</u>周辺に集約し、まとまりのある農地の保全、田園景観との調和に配慮する。</p> <p>③ 松川西部地域</p> <p><u>松川西部地域は、主として乳川の西側に位置し、安曇野の田園景観を形成する広がりのある農地と山麓部の森林があることから、これらを保全して良好な環境を維持することを基本とする。</u></p> <p><u>宅地や公共施設、観光施設は、一般県道有明大町線（山麓線）沿いの集落や既存施設の周辺に配置し、周辺景観との調和に努める。</u></p>

都市構造図（池田都市計画区域）



- 凡例
- 自然環境保全エリア
 - 森林環境共生エリア
 - 田園環境保全エリア
 - 市街地整備エリア
 - 主要な河川、湖
 - 生活拠点
(都市機能の充実を図るエリア)
 - 主要幹線道路
 - 幹線道路
 - 構想道路 (参考)
 - 鉄道
 - 鉄道駅
 - その他の都市施設
 - 主要な観光交流拠点 (既存)
 - 水と緑の交流拠点 (既存)
 - 水と緑の交流拠点 (計画・整備中)
 - 都市計画区域

都市構造図（池田都市計画区域）



- 凡例
- 森林エリア
 - 田園エリア
 - 市街地エリア
 - 主要な河川、湖
 - 生活拠点
(都市機能の充実を図るエリア)
 - 主要幹線道路 (既設)
 - 幹線道路 (既設)
 - 構想道路 (参考)
 - 鉄道
 - 鉄道駅
 - その他の都市施設
 - 主要な観光交流拠点 (既存)
 - 水と緑の交流拠点 ※1 (既設)
 - 水と緑の交流拠点 ※1 (水二部併用・整備中)
 - ※1 4ha以上の都市公園
 - 都市計画区域
 - ※2 平成20年度長野県公営の地域高規格道路に本町魚川連絡道路附属区間

旧	新
<p>2. 区域区分の決定の有無及び区域区分の定める際の方針</p> <p>(1) 区域区分の決定の有無</p> <div data-bbox="349 1478 424 2056"> <p>本都市計画に区域区分を定めない。</p> </div> <p>なお、区域区分を定めないとした根拠は、次のとおりである。</p> <p>① 県による県下同一基準での判断結果</p> <p>県では、人口の動向、土地利用の状況等に着目し市街地外への宅地化の傾向等に関する県下同一基準に基づいて、本区域における区域区分の必要性を低いと判断した。その概要は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池田町、松川村ともに市街地外での農地転用状況をみると、県の平均より小さく、市街地外での宅地化の傾向は小さい。 ・本区域内の人口は概ね2万人であり、都市の集積性は高くない。松川村の人口は増加傾向にあるものの、人口増加に伴う宅地開発は村の計画に従い既存の住宅地内に誘導し、人口の増加自体も抑制していく方針をとっている。また、第2次、第3次産業就業者の伸び率は長野県の平均よりも低く、市街地拡大の可能性は少ない。 <p>② 地域特性を踏まえた区域区分の検討</p> <p>池田町では、「池田町自然保護等指導基準要綱」や「池田町環境保全に関</p>	<p>4 区域区分の決定の有無及び区域区分の定める際の方針</p> <p>(1) 区域区分の決定の有無</p> <div data-bbox="349 470 424 1048"> <p>本都市計画に区域区分を定めない。</p> </div> <p>なお、区域区分を定めないとした根拠は、次のとおりである。</p> <p>ア 県による県下同一基準での判断結果</p> <p>県では、人口の動向、土地利用の状況等に着目し市街地外への宅地化の傾向等に関する県下同一基準に基づいて、本区域における区域区分の必要性をやや高いと判断した。その概要は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本区域内の人口は<u>おおむね</u>2万人であり、都市の集積性は高くない。松川村の人口は増加傾向にあるものの、人口増加に伴う宅地開発は村の計画に従い既存の住宅地内に誘導している。また、第2次、第3次産業就業者の伸び率は長野県の平均よりも低く、市街地拡大の可能性は<u>低い</u>。 ・用途地域は指定されていないが、<u>主要地方道大町明科線や一般国道147号、一般県道上生坂信濃松川停車場線沿線等に宅地の集積がみられ、市街地形成の必要性がある。</u> <p>イ 地域特性を踏まえた区域区分の検討</p> <p>池田町では、<u>土地利用調整基本計画を策定し「池田町の土地利用及び開</u></p>

旧	新
<p>わる開発指導要綱」「池田町環境保全に関する条例」などにより開発抑制等の指導をしている。一方、松川村では、土地利用調整基本計画を策定し<u>農振農用地</u>の解除について一定のルールを定め、これを「むらづくり条例」で担保しているほか、この計画で、森林についても森林保養や自然環境の保全を主としたゾーンとして位置付けている。さらに、「松川村開発事業等指導要綱」により建築物や緑化について指導を行っている。</p> <p>今後このような方策を継続し、周辺環境と調和したまちづくりを進める方針であるため、無秩序な市街化は進展しないものと考えられる。</p> <p>③ 区域区分以外の土地利用施策の導入及び継続を前提として「区域区分」は行わない</p> <p>本区域は、①では、区域区分の必要が低いと判断され、②に示す地域特性を踏まえ、両町村の土地利用計画と併せ、区域区分以外の都市計画手法による土地利用規制・誘導を進め、計画的な土地利用を図る。</p> <p>このような本区域の状況と考え方をふまえて、以下のような方針とする。</p> <div data-bbox="1169 1299 1292 2056"> <p>本区域は今後、他の法令との適切な連携のもとで、各種都市計画手法、建築基準法に基づく制度の活用等により、計画的な土地利用の実現を前提として、区域区分は定めない。</p> </div>	<p><u>開発指導に関する条例</u>を制定しているほか、「池田町自然保護等指導基準要綱」や「<u>池田町開発事業指導基準要綱</u>」などにより<u>無秩序な</u>開発抑制等の指導をしている。一方、松川村では、土地利用調整基本計画を策定し<u>農振農用地</u>の解除について一定のルールを定め、これを「<u>松川村振興地域農用地区域</u>」で担保しているほか、この計画で、森林についても森林保養や自然環境の保全を主としたゾーンとして位置付けている。さらに、「松川村開発事業等指導要綱」により建築物や緑化について<u>村独自の基準</u>を設け指導を行っている。</p> <p>今後このような方策を継続し、周辺環境と調和したまちづくりを進める方針であるため、無秩序な市街化は進展しないものと考えられる。</p> <p>④ 区域区分以外の土地利用施策の導入及び継続を前提として「区域区分」は行わない</p> <p>本区域は、④では、区域区分の必要が<u>やや高い</u>と判断されたが、④に示す地域特性を踏まえ<u>ると急激な市街化は考えにくい</u>。したがって、両町村の土地利用<u>調整</u>計画と<u>あわせ</u>、区域区分以外の都市計画手法による土地利用規制・誘導を進め、計画的な土地利用を図る。</p> <p>このような本区域の状況と考え方を<u>踏まえ</u>て、以下のような方針とする。</p> <div data-bbox="1169 291 1292 1048"> <p>本区域は今後、他の法令との適切な連携のもとで、各種都市計画手法、建築基準法に基づく制度の活用等により、計画的な土地利用の実現を前提として、区域区分を定めない。</p> </div>

(参考)
「**区域区分**」とは
「区域区分」とは、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を、優先的、計画的に市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」とに区分することで、一般に「線引き」といわれている。

「**区域区分**」を「する」か「しない」かは**県で判断**
平成12年5月の改正以前の都市計画法では、「区域区分」をするか、しないかは国が法律によって定め、当分の間、一定の条件を満たす都市計画区域を対象として、限定的に実施されてきた。しかし、高度成長期の「都市化社会」から安定・成熟した「都市型社会」への移行など、近年の社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、平成12年5月の都市計画法の改正により、「区域区分」については、広域的な観点から県が、地域の状況に応じて区域毎に判断することとなった。

(2) 区域区分の方針

前項で記述のとおり本区域では区域区分は行わないため、本項目に対する記述は要しないが、本区域の基本理念に基づき、計画的なまちづくり実現に向け、今後の人口、産業規模について以下のとおり参考表記する。

① おおむねの人口

本区域の将来におけるおおむねの人口を次のとおり想定する。

表 10年後のおおむねの人口

区分	年次		平成12年 (基準年)	平成22年 (基準年の10年後)
都市計画区域人口	池田町		10千人	おおむね10千人
	松川村		10千人	おおむね11千人
	合計		20千人	おおむね21千人

※基準年人口は、国勢調査結果。平成22年の人口はコーポータ法等による推計により算出。

(参考)
「**区域区分**」とは
「区域区分」とは、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を、優先的、計画的に市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」とに区分することで、一般に「線引き」といわれている。

「**区域区分**」を「する」か「しない」かは**県が判断**
平成12年5月の改正以前の都市計画法では、「区域区分」をするか、しないかは国が法律によって定め、当分の間、一定の条件を満たす都市計画区域を対象として、限定的に実施されてきた。しかし、高度成長期の「都市化社会」から安定・成熟した「都市型社会」への移行など、近年の社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、平成12年5月の都市計画法の改正により、「区域区分」については、広域的な観点から県が、地域の状況に応じて区域毎に判断することとなった。

(2) 区域区分の方針

前項で記述のとおり本区域では区域区分は行わないため、本項目に対する記述は要しないが、本区域の基本理念に基づき、計画的なまちづくり実現に向け、今後の人口について以下のとおり参考表記する。

② おおむねの人口

本区域の将来におけるおおむねの人口を次のとおり想定する。

区分	年次		平成17年 (基準年)	平成27年 (中間年)	平成32年 (目標年)
都市計画区域人口	池田町		10.4千人	おおむね9.8千人	おおむね9.4千人
	松川村		10.6千人	おおむね9.9千人	おおむね9.6千人
	合計		21.0千人	おおむね19.7千人	おおむね19.0千人

② 産業の規模

本区域の将来における産業の規模を次のとおり想定する。

表 10 年後のおおむねの産業規模（2地域合計）

区分	年次	
	平成 12 年 (基準年)	平成 22 年 (基準年の 10 年後)
生産 規模		
工業出荷額	361 億円	435 億円
卸小売販売額	193 億円	246 億円
第 1 次産業	1.3 千人	1.3 千人
第 2 次産業	4.5 千人	4.4 千人
第 3 次産業	5.3 千人	5.3 千人

表 10 年後のおおむねの産業規模（地域別）

区分	年次	
	平成 12 年 (基準年)	平成 22 年 (基準年の 10 年後)
生産 規模	池田	池田
	松川	松川
	池田	池田
卸小売販売額	池田	池田
	松川	松川
	池田	池田
第 1 次産業	池田	池田
	松川	松川
	池田	池田
第 2 次産業	池田	池田
	松川	松川
	池田	池田
第 3 次産業	池田	池田
	松川	松川
	池田	池田

※ 1：工業統計調査結果報告書（平成 13 年度） ※ 2：平成 11 年 商業統計調査結果報告書
※ 3：平成 12 年度 国勢調査より
※ 4：平成 10 年度都市計画基礎調査における当時の推計値と最新の実績値（平成 11 年商業統計調査結果報告書、平成 13 年工業統計調査結果報告書における実績値）とを比較して推計。

(注) 平成 17 年基準年人口は「国勢調査」及び「都市計画基礎調査」による統計値。
平成 32 年欄の都市計画区域人口は、国立社会保障・人口問題研究所による
コーホート要因法により算定し公表した行政区画人口から、平成 22 年国勢調査
結果を考慮したうえで、回帰式による都市計画区域外人口を減じて算定。

旧	新
<p>3. 主要な都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>① 主要用途の配置の方針</p> <p>本区域では、幹線道路沿いを中心に市街地を形成するとともに、その周囲に広がるまとまりのある田園を保全し、池田、松川両地域一体で緑豊かな田園に育まれた<u>すみよい環境</u>づくりを進める。</p> <p>a. 商業地</p> <p>商業地は、主に幹線道路沿いに集約し、施設の整備にあたっては、街並みの景観及び周辺の環境に配慮し、適正な規模やデザインなどの誘導に努める。</p> <p>【池田地域】</p> <p>商業地は、既存の商業施設が多く立地している主要地方道大町明科線沿いに配置し、既存の施設の周辺に集約することにより、まとまりのある商業地の形成を図る。その際には、低・未利用地等の有効活用を推進する。</p> <p>【松川地域】</p> <p>商業地は、一般国道 147 号と一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いを中心として集約する。施設の整備にあたっては、街並みの景観及び周辺の環境に配慮し、適正な規模やデザインなどの誘導に努める。</p> <p>b. 工業地</p> <p>既存の工業の拠点に集約することを基本とし、施設の立地にあたっては、外周部などの緑化の推進により、周辺の土地利用や環境、景観との調和を</p>	<p>5 主要な都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>A 主要用途の配置の方針</p> <p>本区域では、幹線道路沿いを中心に市街地を形成するとともに、その周囲に広がるまとまりのある田園を保全し、池田、松川両地域一体で緑豊かな田園に育まれた<u>住みよい環境</u>づくりを進める。</p> <p>(7) 商業地</p> <p>商業地は、主に幹線道路沿いに集約し、施設の整備にあたっては、街並みの景観及び周辺の環境に配慮し、適正な規模やデザインなどの誘導に努める。</p> <p>【池田地域】</p> <p>商業地は、既存の商業施設が多く立地している主要地方道大町明科線沿いに<u>主に</u>配置し、既存の施設の周辺に集約することにより、まとまりのある商業地の形成を図る。その際には、低・未利用地等の有効活用を推進する。</p> <p>【松川地域】</p> <p>商業地は、一般国道 147 号及び一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いを中心として集約する。施設の整備にあたっては、街並みの景観及び周辺の環境に配慮し、適正な規模やデザインなどの誘導に努める。</p> <p>(4) 工業地</p> <p>既存の工業の拠点に集約することを基本とし、施設の立地にあたっては、外周部などの緑化の推進により、周辺の土地利用や環境、景観との調和を</p>

旧	新
<p>図る。</p> <p>【池田地域】 工業地は、主要地方道大町明科線沿いや高瀬川沿いの既存施設の周辺に配置する。とくに既存の工業団地周辺に工場施設の集約を図る。</p> <p>【松川地域】 工業地や新たな産業の創出に関連する施設は、<u>村の南東部の既存施設周辺、あるいは、市街地北東部に設定されている産業創造の拠点形成の予定区域に集約し、周辺環境との調和に留意しながら、まとまりのある工業地を形成する。</u></p> <p>c. 住宅地 住宅地は、既存の市街地を中心とした一定のエリアに集約を図り、まとまりのある優良農地の保全に<u>とくに留意する。</u></p> <p>【池田地域】 住宅地は、<u>主要地方道大町明科線沿いと、山麓部、既存の集落周辺に集約する。</u>まとまりのある農地の広がる区域ではその保全を基本として、農地転用は最小限に止める。</p> <p>【松川地域】 住宅地は<u>一般国道147号より東側に配置することを基本とし、既存の住宅地間の点在した非農用地へ誘導する。</u>また、一般国道147号より西側の地域では、<u>既存の集落の周辺にみられる農業振興地域の非農用地区域に宅地を集約する。</u></p>	<p>図る。</p> <p>【池田地域】 <u>「池田町土地利用調整基本計画」で定めた産業創出候補区域への集約を図る。</u></p> <p>【松川地域】 <u>「松川村土地利用調整基本計画」で定めた産業創造ゾーンへの集約を図る。</u></p> <p>(7) 住宅地 住宅地は、既存の市街地を中心とした一定のエリアに集約を図り、まとまりのある優良農地の保全に<u>特に留意する。</u></p> <p>【池田地域】 住宅地は既存の集落周辺<u>への集約を基本とする。</u>まとまりのある農地の広がる区域ではその保全を基本として、農地転用は最小限に止める。</p> <p>【松川地域】 <u>「松川村土地利用調整基本計画」により配置することを基本とし、既存の住宅地間の点在した非農用地へ誘導する。</u>また、一般国道147号より西側の地域では、<u>点在する農業振興地域内農用地区域外農地における宅地開発が農地の中に無秩序に拡散しないよう、既存集落に集約的に誘導する。</u></p>

旧	新
<p>② 土地利用の方針</p> <p>ア. 用途転換、用途純化又は用途複合化に関する方針</p> <p>工業、商業、住宅などは同じ用途の土地への集約化を図り、用途が混在しない適正な市街地の形成を図るとともに、農地への無秩序な市街化を抑制する</p> <p>【池田地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅団地、工業誘致などの新たな開発に際しては、農地の保全を優先として、農地の転用は最小限に止める。 ・遊休荒廃が進んでいる農地については、現況をよく把握しながら基盤整備と開発の両面から検討し、自然環境に配慮した多面的な土地利用を推進する。 <p>【松川地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口増加や宅地需要の増大による、虫食いの的な宅地開発の拡散を防ぐために、既存市街地内の非農用地に宅地開発を誘導する。 ③ 一般国道 147 号及び一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いでは、商業地や住宅地などの無秩序な拡散が懸念されるため、こうした開発を計画的に集約し、住宅地と商業地、工業地のすみ分けを図る。 ・工業地の無秩序な拡散を抑制するため、工場、倉庫など工業系施設の立地を優先する区域を設定し、集約化を図る。 <p>イ. 居住環境の改善又は維持に関する方針</p> <p>両地域ともに、中心市街地では狭い道路が多く、建物が密集している。このような区域では道路や下水道、公園等の都市施設を整備とともに木造老朽住宅をはじめとする建築物等の耐震化を進め、防災性、利</p>	<p>① 土地利用の方針</p> <p>(7) 用途転換、用途純化又は用途複合化に関する方針</p> <p>工業、商業、住宅などは同じ用途の土地への集約化を図り、用途が混在しない適正な市街地の形成を図るとともに、農地への無秩序な市街化を抑制する。</p> <p>【池田地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅団地、工業誘致などの新たな開発に際しては、農地の保全を優先として、農地の転用は最小限に止める。 ・遊休荒廃が進んでいる農地については、現況をよく把握しながら基盤整備と開発の両面から検討し、自然環境に配慮した多面的な土地利用を推進する。 <p>【松川地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口増加や宅地需要の増大による、虫食いの的な宅地開発の拡散を防ぐために、既存市街地内の非農用地に宅地開発を誘導する。 ・一般国道 147 号及び一般県道上生坂信濃松川停車場線沿いでは、商業地や住宅地などの無秩序な拡散が懸念されるため、こうした開発を計画的に集約し、住宅地と商業地、工業地のすみ分けを図る。 ・工業地の無秩序な拡散を抑制するため、工場、倉庫など工業系施設の立地を優先する区域を設定し、集約化を図る。 <p>(4) 居住環境の改善又は維持に関する方針</p> <p>両地域ともに、中心市街地では狭い道路が多く、建物が密集している。このような区域では道路や下水道、公園等の都市施設を整備とともに木造老朽住宅をはじめとする建築物等の耐震化を進め、防災性、利</p>

旧	新
<p>郊外の田園の集落では、各地域の特性を踏まえながら、以下に示すような北アルプスとその麓に広がる田園景観を活かした居住環境の改善、維持を進める。</p> <p>【池田地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東山の山麓部の荒廃農地等を有効に活かし、既存の集落環境との調和を図りながら、北アルプスの山並みや田園の良好な眺望を享受できる居住地を確保する。整備にあたっては、接道部の緑化や眺望の確保、身近な公園等の整備に努める。 <p>【松川地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住環境の整備にあたっては、生け垣の設置や屋敷林の保全などにより、緑豊かな松川村特有の田園環境との調和を図り、身近な地区公園等の整備を進める。 <p>ウ. 優良な農地との健全な調和に関する方針</p> <p>優良農地の保全を優先し、農地転用は必要最小限に止める。</p> <p>【池田地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地における開発に際しては、農地保全の立場から農地転用は最小限に止める方向とする。また、農地の集積による規模の拡大と省力化を推進し、優良農地としての活用を図る。 	<p>便性、快適性の向上に努める。</p> <p>郊外の田園の集落では、各地域の特性を踏まえながら、以下に示すような北アルプスとその麓に広がる田園景観を活かした居住環境の改善、維持を進める。</p> <p>【池田地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東山山麓部の荒廃農地等を有効に活かし、既存の集落環境との調和を図りながら、北アルプスの山並みや田園の良好な眺望を享受できる居住地を確保する。整備にあたっては、接道部の緑化や眺望の確保、身近な公園等の整備に努める。 <p>【松川地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住環境の整備にあたっては、生け垣の設置や屋敷林の保全などにより、緑豊かな松川村特有の田園環境との調和を図り、身近な地区公園等の整備を進める。 <p>(ウ) 優良な農地との健全な調和に関する方針</p> <p>優良農地の保全を優先し、農地転用は必要最小限に止める。</p> <p>また、農業振興地域農用地区域は、「長野県農業振興地域整備基本方針」に基づき、土地利用の規制・誘導策と農業振興施策との連携によって保全する。</p> <p>【池田地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地における開発に際しては、農地保全の立場から農地転用は最小限に止める方向とする。また、農地の集積による規模の拡大と省力化を推進し、優良農地としての活用を図る。

旧	新
<p>【松川地域】</p> <p>松川地域における農地は、以下の方針に沿ってその保全を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業振興地域内の農用地について、基本的に除外は行わない。 ・農業振興地域において、農業振興農用地を除外する場合は等積以上の農業振興除外地との交換によるものとする。 <p><u>エ. 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針</u></p> <p><u>急傾斜地の崩壊、土石流、地滑りの土砂災害の恐れのある区域において、住民の生命及び身体を保護するため、建築物の立地抑制等を図る区域を、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等として指定を行うことを推進する。</u></p> <p><u>オ. 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針</u></p> <p>山間部および山麓部の森林の持つ公益的な機能の維持、向上を図るとともに、山麓部の自然環境を活かし、自然とのふれあいを深める空間の整備に努める。</p> <p>【池田地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区域の東側には比較的急な森林が広がる。水源かん養などの公益的機能の維持、向上、土砂災害の防止等を図るため、適切な森林管理、治山等の対策との連携を図り、この森林の保全を図る。 ・東山の山麓部に広がる森林、農地、あづみの池田クラフトパーク等 	<p>【松川地域】</p> <p>松川地域における農地は、以下の方針に沿ってその保全を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業振興地域内の農用地について、基本的に除外は行わない。 ・「<u>松川村土地利用調整基本計画</u>」により農業振興地域において、農業振興農用地を除外する場合は等積以上の農業振興除外地との交換によるものとする。 <p><u>(イ) 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針</u></p> <p><u>土砂災害から住民の生命を守るため、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害のおそれのある区域についての危険周知、警戒避難体制の整備、一定の開発行為の制限、建築物の構造規制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進する。</u></p> <p><u>(ウ) 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針</u></p> <p>山間部及び山麓部の森林の持つ公益的な機能の維持・向上を図るとともに、山麓部の自然環境を活かし、自然とのふれあいを深める空間の整備に努める。</p> <p><u>また、「生物多様性ながの県戦略」に基づいた取り組みを進めるなど、生物多様性にも配慮する。</u></p> <p>【池田地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区域の東側には比較的急な森林が広がる。水源かん養などの公益的機能の維持、向上、土砂災害の防止等を図るため、適切な森林管理、治山等の対策との連携を図り、この森林の保全を図る。 ・東山山麓部に広がる森林、農地、あづみ野池田クラフトパーク等を、

旧	新
<p>を、自然とふれあう拠点等として<u>を有効活用しながら</u>、山麓部一体の自然環境の保全を図る。</p> <p>【松川地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山間部から山麓部にかけての森林は、環境保全、防災、景観などの様々な機能の面から、本地域の環境の骨格として重要であることから、現状の良好な自然的土地利用を維持する。 山麓部の緩傾斜地に広がる森林の一部は、その土地利用計画に従い、自然とふれあ<u>う</u>拠点等として、現存の資源を有効活用する。 <p>カ. <u>計画的な都市的土地利用の実現に関する方針</u></p> <p><u>用途地域の定められていない区域（白地地域）</u>では、<u>現在の土地利用や将来の市街地像を見据えた建築物の容積率、建ぺい率の区分に沿って</u>、周囲の景観や環境に調和した形態、規模の建築物の立地を図る。</p> <p>水田の広がりの中に散居集落のみられる両地域の田園では、良好な環境を保全するため、低層住宅地に定められる制限と同程度の建築物の規模とする。</p> <p>幹線道路の沿道や市街地の中心部、中低層住宅が立ち並んでいる地域では、低層住宅等の環境を保持できる規模の建築物の立地を図る。これと合わせ、池田、松川両地域の<u>農振白地の分散状況</u>を勘案しながら、まあまりのある優良農地を保全するゾーンと都市的ゾーンを分け、その実現を担保する都市計画制度や自主条例など必要手法を確立し、<u>計画的な都市的土地利用の実現を図る</u>。</p>	<p>自然とふれあう拠点等として有効活用しながら、山麓部一体の自然環境の保全を図る。</p> <p>【松川地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山間部から山麓部にかけての森林は、環境保全、防災、景観などの様々な機能の面から、本地域の環境の骨格として重要であることから、現状の良好な自然的土地利用を維持する。 山麓部の緩傾斜地に広がる森林の一部は、その土地利用計画に従い、自然とふれあ<u>う</u>拠点等として、現存の資源を有効活用する。 <p>(カ) <u>計画的な都市的土地利用の実現に関する方針</u></p> <p>現在の土地利用や将来の市街地像を見据えた建築物の容積率、建ぺい率の区分に沿って、周囲の景観や環境に調和した形態、規模の建築物の立地を図る。</p> <p>水田の広がりの中に散居集落のみられる両地域の田園では、良好な環境を保全するため、低層住宅地に定められる制限と同程度の建築物の規模とする。</p> <p>幹線道路の沿道や市街地の中心部、中低層住宅が立ち並んでいる地域では、低層住宅等の環境を保持できる規模の建築物の立地を図る。これとあわせ、池田、松川両地域の<u>農業振興地域内農用地区域外農地</u>の分散状況を勘案しながら、まあまりのある優良農地を保全するゾーンと都市的な土地利用の集約を図るゾーンを分け、その実現を担保する<u>ため</u>、<u>都市計画制度のさらなる導入</u>や自主条例などにより、計画的な都市的土地利用の実現を図る。</p> <p>また、地震時における建築物の倒壊による道路閉塞を防止し、円滑な</p>

旧	新
<p>(2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>① 交通施設の都市計画の決定方針</p> <p>a. 基本方針</p> <p>本区域の交通施設に関する交通体系の整備の方針と整備水準の目標は以下のとおりとする。</p> <p>ア. 交通体系の整備の方針</p> <p>本区域内の道路交通網の南北軸は、池田町の市街地の中心を走る主要地方道大町明科線と、松川村の市街地の中心を走る一般国道 147 号、北アルプスの山麓と高瀬川沿いをそれぞれ走る一般県道有明大町線の主要幹線道路路からなる。一方、両地域の市街地を結ぶ東西軸は、一般県道上生坂信濃松川停車場線及び一般県道矢地赤芝線に限られる。このほか、松川地域には J R 大糸線があり、隣接地域を含めた生活や通勤・通学上の重要な軸となっている。</p> <p>このような現状を踏まえ、本区域では、南北、東西の軸のバランスや道路交通と鉄道網のつながりの充実を図る。圏域全体の観光利用の促進、</p>	<p><u>避難、救急・消防活動の実施、緊急物資の輸送を確保するため、緊急輸送路沿道の建築物の耐震化を進める。</u></p> <p>(2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>ア. 交通施設の都市計画の決定方針</p> <p>(7) 基本方針</p> <p>本区域の交通施設に関する交通体系の整備の方針と整備水準の目標は以下のとおりとする。</p> <p>1) 交通体系の整備の方針</p> <p><u>本区域には「糸魚川－静岡構造線」があり、大規模な地震災害が起こる可能性のある地理的条件下にある。このため、災害時において、主要幹線道路は広域的な避難路や緊急輸送路として、幹線道路やその他の道路は地域での避難路や延焼遮断帯としての役割を考慮したうえで、地域の防災性を高める道路網の整備を図る。</u></p> <p>本区域内の道路交通網の南北軸は、池田町の市街地の中心を走る主要地方道大町明科線と松川村の市街地の中心を走る一般国道 147 号、北アルプスの山麓と一級河川高瀬川沿いをそれぞれ走る一般県道有明大町線の 4 本の主要幹線道路路からなる。一方、両地域の市街地を結ぶ東西軸は、一般県道上生坂信濃松川停車場線及び一般県道矢地赤芝線に限られる。このほか、松川地域には J R 大糸線があり、隣接地域を含めた生活や通勤・通学上の重要な軸となっている。</p> <p>このような現状を踏まえ、本区域では、南北、東西の軸のバランスや道路交通と鉄道とのつながりの充実を図る。圏域全体の観光利用の促進、</p>

旧	新
<p>産業の発展などを見据え、本区域の南側に接する<u>穂高・豊科方面及び明科・松本方面</u>、また北側に接する大町、<u>白馬方面</u>とをつなぐ南北方向の主要幹線軸については、<u>質の高い道路</u>による強化を図る。また、区域内経済活動の効率化、通学の際の移動の円滑化等を図るため、池田地域と松川地域を東西方向につなぐ幹線軸を強化する。</p> <p>上記の交通体系整備の方針を踏まえ、本区域の主要幹線道路、幹線道路、その他の道路の具体的な整備方針を次のように設定する。</p> <p>○<u>主要幹線道路、幹線道路網の機能向上</u></p> <p>主要幹線道路および幹線道路については、周辺の環境に配慮し、道路の安全性や快適性を確保するため、道路幅員の拡大や歩道の整備等を推進する。また、観光地などに集中する自動車の混雑解消や、排気ガスなどによる環境への影響の低減、周辺住民や観光客の交通の安全確保に努める。</p> <p>○<u>その他の道路との役割の明確化</u></p> <p>日常生活における道路の安全性を確保するため、主要幹線道路や幹線道路の広域的な交通が、生活道路となつている町村道に流入しないように、それぞれの道路の機能に応じた役割を明確にし、安全で快適な交通体系の形成を目指す。</p> <p><u>イ. 整備水準の目標</u></p> <p>主要幹線道路、幹線道路における交通の流れを、安全性に配慮しながら、広域的な交通をより円滑にすることを目標とする。また、幹線道路の機能を補完する路線の整備を進め、ＪＲ大糸線の駅と生活拠点との結</p>	<p><u>救急医療や産業</u>の発展などを見据え、本区域の南側に接する<u>安曇野・松本方面</u>、また北側に接する大町・<u>白馬方面</u>をつなぐ南北方向の主要幹線軸については、<u>地域高規格道路松本糸魚川連絡道路</u>による強化を図る。また、区域内経済活動の効率化、通学の際の移動の円滑化等を図るため、池田地域と松川地域を東西方向につなぐ幹線軸を強化する。</p> <p>上記の交通体系整備の方針を踏まえ、本区域の主要幹線道路、幹線道路、その他の道路の具体的な整備方針を次のように設定する。</p> <p>○<u>主要幹線道路、幹線道路網の機能向上</u></p> <p>主要幹線道路及び幹線道路については、周辺の環境に配慮し、道路の安全性や快適性を確保するため、道路幅員の拡大や歩道の整備等を推進するとともに、<u>主要幹線・幹線道路における既存施設の長寿命化対策を図る</u>。また、観光地などに集中する自動車の混雑解消や、排気ガスなどによる環境への影響の低減、周辺住民や観光客の交通の安全確保に努める。</p> <p>○<u>その他の道路との役割の明確化</u></p> <p>日常生活における道路の安全性を確保するため、主要幹線道路や幹線道路の広域的な交通が、生活道路となつている町村道に流入しないように、それぞれの道路の機能に応じた役割を明確にし、安全で快適な交通体系の形成を目指す。</p> <p><u>２) 整備水準の目標</u></p> <p>主要幹線道路、幹線道路における交通の流れを、安全性に配慮しながら、広域的な交通をより円滑にすることを目標とする。また、幹線道路の機能を補完する路線の整備を進め、ＪＲ大糸線の駅と生活拠点との結</p>

旧	新
<p>びつきを強化し、区域内の住民の<u>すみよさ</u>をより向上させていくことを目指す。</p> <p>b. 主要な施設の配置の方針 本区域における主要施設のうち、検討が具体化している施設の配置の方針は次のとおりである。</p> <p>【主要幹線道路】 都市間を結ぶ広域的な道路としての機能強化を図ることを基本とし、大北圏域の南側からの玄関口として、圏域全体の交通体系に関わる南北軸の道路の強化を推進する。</p> <p>○一般国道 147 号 ○一般県道有明大町線（通称：山麓線） ○一般県道有明大町線（通称：北アルプスパノラマロード） ○主要地方道大町明科線</p> <p>注）ゴシック体：既設道路</p> <p>【幹線道路】 主要幹線道路を補完し、周辺都市との交通や区域内の住宅地、就業地、観光拠点や鉄道駅など交通が集中する地区を連絡し、地域や市街地の土地利用における骨格の形成を図る。特に、高瀬川をはさんで位置する両地域の市街地南部を結び、相互の交流や生活動線の充実を図る。</p> <p>○一般県道上生坂信濃松川停車場線 ○一般県道矢地赤芝線 ○一般県道宇留賀池田線 ○一般県道原木戸安曇追分停車場線</p>	<p>びつきを強化し、区域内の住民の<u>住みよさ</u>をより向上させていくことを目指す。</p> <p>(4) 主要な施設の配置の方針 本区域における主要施設のうち、検討が具体化している施設の配置の方針は次のとおりである。</p> <p>【主要幹線道路】 都市間を結ぶ広域的な道路及び災害時の避難路や緊急輸送路としての機能強化を図ることを基本とし、大北圏域の南側からの玄関口として、圏域全体の交通体系に関わる南北軸の道路の強化を推進する。</p> <p>○一般国道 147 号 ○一般県道有明大町線（通称：山麓線） ○一般県道有明大町線（通称：北アルプスパノラマロード） ○主要地方道大町明科線</p> <p>注）ゴシック体：既設道路</p> <p>【幹線道路】 主要幹線道路を補完し、周辺都市との交通や区域内の住宅地、就業地、観光拠点や鉄道駅など交通が集中する地区を連絡し、地域や市街地の土地利用における骨格の形成を図る。特に、<u>一級河川</u>高瀬川をはさんで位置する両地域の市街地南部を結び、相互の交流や生活動線の充実を図る。</p> <p>○一般県道上生坂信濃松川停車場線 ○一般県道矢地赤芝線 ○一般県道宇留賀池田線 ○一般県道原木戸安曇追分停車場線</p>

新	旧						
<p>場線</p> <p>注) ゴシック体：既設道路</p> <p>(ウ) <u>主要な施設の整備目標</u> <u>おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設は、次のとおりとする。</u></p> <p>表 <u>道路整備に関する方針</u></p> <table border="1"> <tr> <th>主な施設</th><th>施設名と整備目標</th></tr> <tr> <td>道路</td><td>・ <u>一般県道 上生坂信濃松川停車場線</u></td></tr> <tr> <td>(主要幹線及び幹線道路)</td><td>・ <u>一般県道 宇留賀池田線</u></td></tr> </table> <p><u>Ⅰ 下水道及び河川の都市計画の決定の方針</u></p> <p><u>(7) 基本方針</u></p> <p>1) <u>下水道及び河川の整備の方針</u></p> <p>【下水道】</p> <p>本区域では、市街地等の生活環境の改善、河川等の環境保全の観点から、公共下水道、特定環境保全公共下水道をはじめとする下水道事業が進められ、<u>整備が完了している。今後はこれまでに整備された下水道施設の適正な維持・管理、下水道への接続率の向上を推進する。</u></p> <p>【河川】</p> <p><u>一級河川 高瀬川</u> 中流域に位置する区域として、上流域の状況、地域社</p>	主な施設	施設名と整備目標	道路	・ <u>一般県道 上生坂信濃松川停車場線</u>	(主要幹線及び幹線道路)	・ <u>一般県道 宇留賀池田線</u>	<p>場線</p> <p>注) ゴシック体：既設道路 明朝体：計画道路</p> <p><u>② 下水道及び河川の都市計画の決定の方針</u></p> <p><u>a. 基本方針</u></p> <p>1) <u>下水道及び河川の整備の方針</u></p> <p>【下水道】</p> <p>本区域では、市街地等の生活環境の改善、河川等の環境保全の観点から、公共下水道、特定環境保全公共下水道をはじめとする下水道事業が進められてきている。今後も下水道計画区域内を主な対象として、これらの事業等により、<u>汚水処理のための計画的な施設整備を推進していく。</u></p> <p>【河川】</p> <p>高瀬川 中流域に位置する区域として、上流域の状況、地域社会と河川</p>
主な施設	施設名と整備目標						
道路	・ <u>一般県道 上生坂信濃松川停車場線</u>						
(主要幹線及び幹線道路)	・ <u>一般県道 宇留賀池田線</u>						

旧	新
<p>との関わりに留意した治水対策を進める。また、河川敷を利用したレクリエーション施設や、生物の生息地となる空間の整備を推進し、河川敷および周や堤防を利用した散策路やサイクリングロードにより、河川敷および周辺の公園・緑地の連続性を確保し、河川周辺の一体的な利用と緑化の推進を図る。</p> <p>2) 整備水準の目標</p> <p>下水道計画区域内の面整備の完了を目指し、整備を進める。</p> <p>b. 主要な施設の配置の方針</p> <p>前項の各施設の整備方針より、本区域の主要施設の配置の方針を示す。</p> <p>【下水道】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両地域でこれまで進められてきた下水道計画に沿って、既存の宅地への整備を中心とした計画的な施設配置を推進する。 ・池田地域の公共下水道は、平成 22 年度に事業が完了するよう施設整備を推進する。 ・松川地域では全域の整備目標年次を平成 25 年とし、早期供用開始に向け整備を推進する。 <p>【河川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池田町及び松川村の地域防災計画に記載されている重要水防区域を中心に、既存河川の河川改修を行う。 ・高瀬川河川敷のオープンスペースの有効活用、利用促進を図り、地域住民の交流の場としての機能を高めていく。 	<p>会と河川との関わりに留意し、ハード・ソフト対策が一体となった防災・減災対策を進める。また、河川敷を利用したレクリエーション施設や、生物の生息地となる空間の整備を推進し、河川敷や堤防を利用した散策路やサイクリングロードにより、河川敷及び周辺の公園・緑地の連続性を確保し、河川周辺の一体的な利用と緑化の推進を図る。</p> <p>2) 整備水準の目標</p> <p>下水道施設の適切な維持・管理に努める。</p> <p>(4) 主要な施設の配置の方針</p> <p>前項の各施設の整備方針より、本区域の主要施設の配置の方針を示す。</p> <p>【下水道】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両地域でこれまでに整備された下水道施設の適正な維持・管理により長寿命化を図るとともに、下水道への接続率の向上を推進する。 <p>【河川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池田町及び松川村の地域防災計画に記載されている重要水防区域を中心に、河川改修を行う。 ・一級河川高瀬川河川敷のオープンスペースの有効活用、利用促進を図り、地域住民の交流の場としての機能を高めていく。

旧		新																									
<div><div>c. 主要な施設の整備目標</div><div>本区域でおおむね 10 年以内に整備する施設は次のとおりである。</div><div>【下水道】</div><div><div>表 下水道・整備計画施設</div><table><tr><th>地域</th><th>区分</th><th>処理区域名</th></tr><tr><td>池田</td><td>公共下水道</td><td>池田処理区</td></tr><tr><td></td><td>特定環境保全公共下水道</td><td>南部処理区</td></tr><tr><td>松川</td><td>公共下水道</td><td>松川処理区</td></tr></table></div><div>【河川】</div><div><div>表 整備対象河川</div><table><tr><th>地域</th><th>区分</th><th>河川名</th></tr><tr><td>池田・松川</td><td>一級河川</td><td>高瀬川</td></tr></table></div></div>		地域	区分	処理区域名	池田	公共下水道	池田処理区		特定環境保全公共下水道	南部処理区	松川	公共下水道	松川処理区	地域	区分	河川名	池田・松川	一級河川	高瀬川	<div><div>(7) 主要な施設の整備目標</div><div>本区域でおおむね 10 年以内に整備する施設は次のとおりである。</div><div>【河川】</div><div><div>表 整備対象河川</div><table><tr><th>地域</th><th>区分</th><th>河川名</th></tr><tr><td>池田・松川</td><td>一級河川</td><td>高瀬川</td></tr></table></div><div>② その他の都市施設の都市計画の決定の方針</div><div>健康で文化的な都市活動と都市機能の向上、良好な生活環境の確保を図るため、隣接する<u>安曇野市</u>に整備されている既存施設（<u>穂高クリーンセンター</u>）の機能の維持、向上に努める。</div><div>(3) 自然的環境の整備<u>又は</u>保全に関する都市計画の決定の方針</div><div>a. 基本方針</div><div>【自然的な環境の特徴と現状、整備又は保全の必要性】</div><div>本区域は、雄大な北アルプスの麓に位置し、北アルプスの豊かな森林やそこから流れ出す清流、東山の豊かな森林に恵まれている。池田地域は、<u>東山山麓</u>から北アルプスとその麓に広がる田園景観が一望でき、松川地域は、今日においても水田の広がりと点在する屋敷林がおりなす</div></div>		地域	区分	河川名	池田・松川	一級河川	高瀬川
地域	区分	処理区域名																									
池田	公共下水道	池田処理区																									
	特定環境保全公共下水道	南部処理区																									
松川	公共下水道	松川処理区																									
地域	区分	河川名																									
池田・松川	一級河川	高瀬川																									
地域	区分	河川名																									
池田・松川	一級河川	高瀬川																									

<p>安曇野特有の田園景観を残す地域である。</p> <p>これらの田園景観を形成する農地や森林などの豊かな緑を保全するとともに、田園や山岳の景観を活かした良好な居住環境の形成に寄与する公園、緑地の整備、緑化の推進を図る。</p> <p>【緑地の確保目標水準】</p> <p>都市公園、緑地の計画的な整備により、都市計画区域内の緑地の保全、緑化の推進を積極的に行い、持続性のある緑地の確保を行う。</p> <p>【住民一人あたりの公共空地の確保】</p> <p>今後 10 年間に於ける都市公園等の整備目標水準を、21 世紀初頭の全国的な目標水準である <u>1人20 m²以上</u>に設定する。</p> <table><caption>表 都市公園等の施設として整備する緑地の目標水準</caption><tr><th rowspan="2">項目</th><th rowspan="2">年次</th><th colspan="2">平成 12 年 (基準年)</th><th colspan="2">平成 22 年 (基準年より 10 年後)</th></tr><tr><th colspan="2">都市計画区域内人口 1 人当たり面積</th><th colspan="2">20 m²/人以上</th></tr><tr><td rowspan="3">都市計画区域内人口 1 人当たり面積</td><td rowspan="3">人口</td><td>池田町</td><td>24.2 m²/人</td><td colspan="2" rowspan="3">20 m²/人以上</td></tr><tr><td>松川村</td><td>17.5 m²/人</td></tr><tr><td>計</td><td>21.0 m²/人</td></tr></table>	項目	年次	平成 12 年 (基準年)		平成 22 年 (基準年より 10 年後)		都市計画区域内人口 1 人当たり面積		20 m ² /人以上		都市計画区域内人口 1 人当たり面積	人口	池田町	24.2 m ² /人	20 m ² /人以上		松川村	17.5 m ² /人	計	21.0 m ² /人	<p>曇野特有の田園景観を残す地域である。一方で、林業の採算性の悪化を背景とした適切に管理されていない森林の増加は、近年の野生鳥獣による農作物等への被害の一因ともなっている。</p> <p>これらの田園景観を形成する農地や森林などの豊かな緑を保全するとともに、田園や山岳の景観を活かした良好な居住環境の形成に寄与する公園、緑地の整備、緑化の推進、公園施設の長寿命化を図る。</p> <p>また、これらの自然的環境は生物多様性に配慮した整備又は保全を図る。</p> <p>【緑地の確保目標水準】</p> <p>都市公園、緑地の計画的な整備により、都市計画区域内の緑地の保全、緑化の推進を積極的に行い、持続性のある緑地の確保を行う。</p> <p>【住民一人あたりの公共空地の確保】</p> <p>21 世紀初頭の全国的な計画目標水準である一人あたり 20 m²以上を満たしているため、今後 10 年間に於ける都市公園等の整備目標水準を、基準年と同程度に設定する。</p> <table><caption>表 都市公園等の施設として整備すべき緑地の目標水準</caption><tr><th rowspan="2">項目</th><th rowspan="2">年次</th><th colspan="2">平成 22 年 (基準年)</th><th colspan="2">平成 32 年 (基準年から 10 年後)</th></tr><tr><th colspan="2">都市計画区域内</th><th colspan="2">人口</th></tr><tr><td rowspan="3">一人あたり面積</td><td rowspan="3">人口</td><td>池田町</td><td>21.73 m²/人</td><td colspan="2" rowspan="3">基準年と同程度</td></tr><tr><td>松川村</td><td>21.64 m²/人</td></tr><tr><td>計</td><td>21.69 m²/人</td></tr></table> <p>資料：2011 長野県の都市計画</p>	項目	年次	平成 22 年 (基準年)		平成 32 年 (基準年から 10 年後)		都市計画区域内		人口		一人あたり面積	人口	池田町	21.73 m ² /人	基準年と同程度		松川村	21.64 m ² /人	計	21.69 m ² /人
項目			年次	平成 12 年 (基準年)		平成 22 年 (基準年より 10 年後)																																			
	都市計画区域内人口 1 人当たり面積			20 m ² /人以上																																					
都市計画区域内人口 1 人当たり面積	人口	池田町	24.2 m ² /人	20 m ² /人以上																																					
		松川村	17.5 m ² /人																																						
		計	21.0 m ² /人																																						
項目	年次	平成 22 年 (基準年)		平成 32 年 (基準年から 10 年後)																																					
		都市計画区域内		人口																																					
一人あたり面積	人口	池田町	21.73 m ² /人	基準年と同程度																																					
		松川村	21.64 m ² /人																																						
		計	21.69 m ² /人																																						

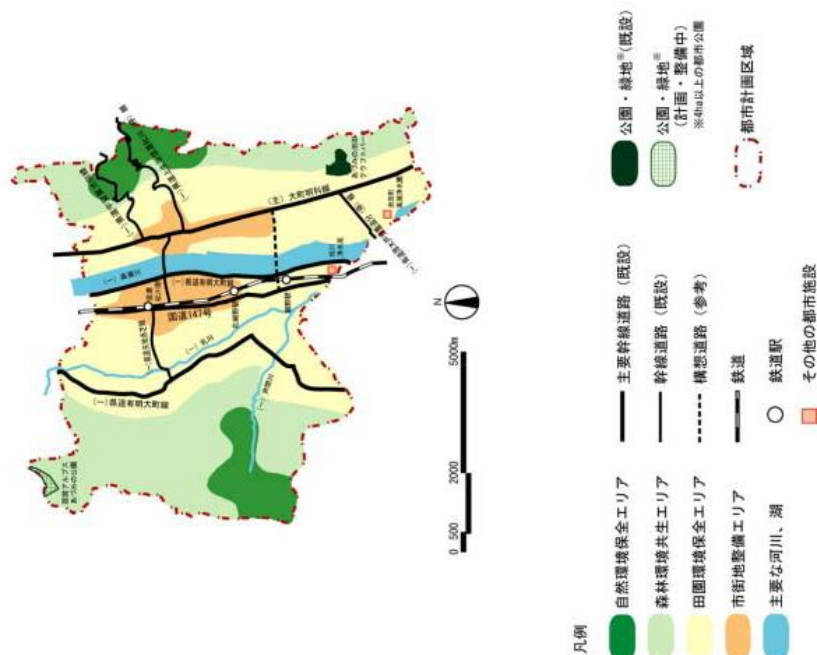
旧	新
<p>b. 主要な緑地の配置の方針</p> <p>本区域内にある緑を環境保全、レクリエーション、防災、<u>景観</u>の4つの視点から整理し、それぞれの系統について整備又は保全の方針を示す。</p> <p>ア. 環境保全系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山間部や扇状地に広がる森林、まとまりのある農地、乳川、芦間川、高瀬川の河畔林などの緑は、気象緩和、大気浄化、水源のかん養など、区域全体の環境を形成することから、<u>上で重要な役割を果たしている</u>ことから、これらの緑を保全して良好な環境の維持を図る。 ・地域の良好な生活環境を形成するために、市街地周辺に拠点となる公園・緑地の整備を推進する。 ・屋敷林や社寺林など生活と密接な関係を築いてきた緑は、地域の環境を支える重要な緑としてその保全を推進する。 ・主要幹線道路、幹線道路沿いや工業地、商業地では、沿道や敷地内に周辺への影響を和らげる緑を配置し、周辺環境との調和を図る。 ・山間部に広がる森林や河川沿い等の環境は、大型哺乳類などの多様な生物の生息地となっている。このような地域の環境を特徴付ける生物の生息地となる緑の保全に努める。 <p>イ. レクリエーション系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな生活環境を形成することを目指し、生活に身近な公園、<u>及</u> 	<p>1 主要な緑地の配置の方針</p> <p>本区域内にある緑を環境保全、レクリエーション、防災、<u>景観構成</u>の4つの視点から整理し、それぞれの系統について整備又は保全の方針を示す。</p> <p>(7) 環境保全系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山間部や扇状地に広がる森林、まとまりのある農地、<u>一級河川</u>乳川、<u>一級河川</u>芦間川、<u>一級河川</u>高瀬川の河畔林などの緑は、気象緩和、大気浄化、水源のかん養など、区域全体の環境を形成する<u>うえで重要な役割を果たしている</u>ことから、これらの緑を保全して良好な環境の維持を図る。 ・地域の良好な生活環境を形成するために、市街地周辺に拠点となる公園・緑地の整備を推進する。 ・屋敷林や社寺林など生活と密接な関係を築いてきた緑は、地域の環境を支える重要な緑としてその保全を推進する。 ・主要幹線道路、幹線道路沿いや工業地、商業地では、沿道や敷地内に周辺への影響を和らげる緑を配置し、周辺環境との調和を図る。 ・山間部に広がる森林や河川沿い等の環境は、大型哺乳類などの多様な生物の生息地となっている。このような地域の環境を特徴付ける生物の生息地となる緑の保全と<u>適切な管理に努める</u>。 ・<u>自然的環境は生物多様性に配慮した整備又は保全を図る。</u> <p>(4) レクリエーション系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな生活環境を形成することを目指し、生活に身近な公園及び

旧	新
<p>び地区や地域の拠点となる公園の整備を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川や道沿いに連続性のある緑や花の豊かな空間の整備を推進するとともに、公園などのオープンスペースを連続させた緑のネットワークの形成を図る。 ・乳川等の河川敷では、緑を活かした親水空間を相互に結ぶ散策路等の整備を推進する。 ・松川地域の馬羅尾高原では、緩傾斜の地形と森林を活かした自然体験型のレクリエーション施設の整備を推進する。施設は豊かな緑とふれあう拠点となることを目的とし、今ある自然環境に調和した施設づくりを進める。 ・池田地域の<u>東山山麓</u>には、山麓の自然環境と緩傾斜を活かし、あづみの<u>池田クラフトパーク</u>等の施設が整備されている。これらの施設を中心として、東山山麓一帯の自然環境と調和したレクリエーション利用を推進する。 ・観光客の滞留や自然体験型のレクリエーションニーズに対応した国営アールプスあづみの公園の<u>整備</u>を推進する。 <p>ウ. 防災系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地では災害時の住民の安全確保のため、避難地となるオープンスペースや避難経路を適切な位置に配置するとともに、積極的な緑化等による防災機能の充実を図る。 	<p>地区や地域の拠点となる公園の整備を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川や道沿いに連続性のある緑や花の豊かな空間の整備を推進するとともに、公園などのオープンスペースを連続させた緑のネットワークの形成を図る。 ・<u>一級河川</u>乳川等の河川敷では、緑を活かした親水空間を相互に結ぶ散策路等の整備を推進する。 ・松川地域の馬羅尾高原では、緩傾斜の地形と森林を活かした自然体験型のレクリエーション施設の整備を推進する。施設は豊かな緑とふれあう拠点となることを目的とし、今ある自然環境に調和した施設づくりを進める。 ・池田地域の<u>東山山麓</u>には、山麓の自然環境と緩傾斜を活かし、あづみの<u>野池田クラフトパーク</u>等の施設が整備されている。これらの施設を中心として、東山山麓一帯の自然環境と調和したレクリエーション利用を推進する。 ・観光客の滞留や自然体験型のレクリエーションニーズに対応した国営アールプスあづみの公園の<u>未整備エリアの整備</u>を推進する。 <p>(ウ) 防災系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地では災害時の住民の安全確保のため、<u>あづみ野池田クラフトパーク</u>、<u>松川中央公園</u>など避難地となるオープンスペースや避難経路を適切な位置に配置するとともに、積極的な緑化等による防災機能の充実を図る。

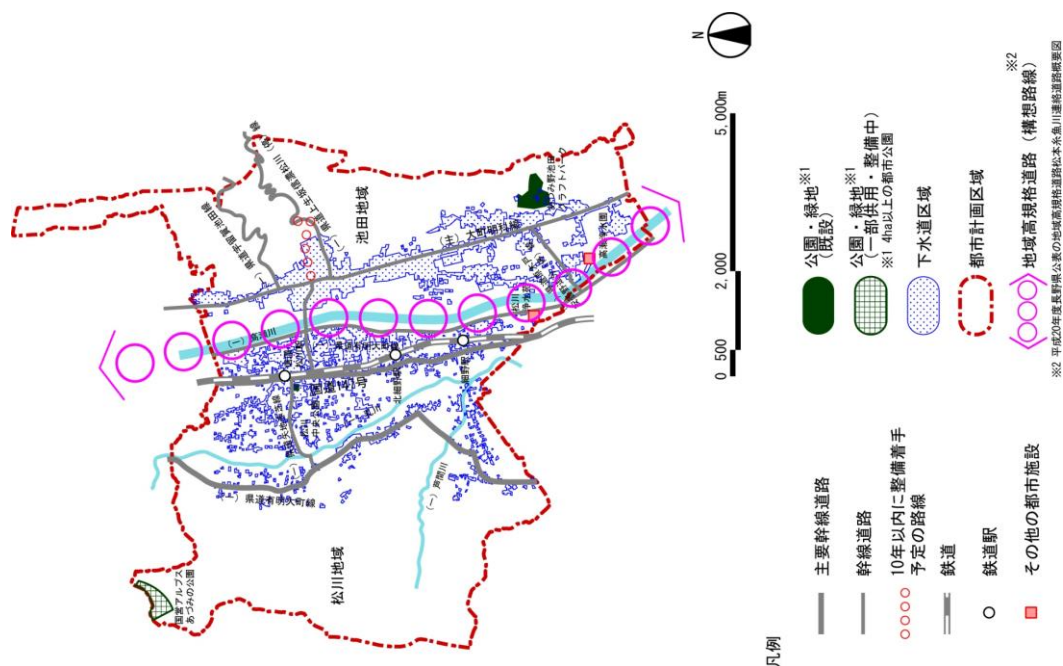
新	旧
<p>Ⅰ 景観構成系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広がりのある水田とそこに散在する屋敷林が創り出す、安曇野を特徴付ける田園景観、農地内を流れる河川とその河畔林が創り出す緑の帯、山麓部に広がる里山環境など、水と緑の豊かな景観の保全を図る。 ・ 社寺林や遺跡を取り巻く緑、巨樹や巨木林など、地域の歴史ある景観を形成する緑の保全に努める。また、遺跡や巨木を中心に公園の整備や周辺の緑化等を推進し、より良い景観の形成を図る。 ・ 市街地では、沿道、<u>生け垣</u>などの緑化によってうるおいのある都市景観の形成を目指す。 ・ <u>長野県景観育成計画における沿道景観形成重点地域に指定されている一般国道 147 号沿道は、景観計画に基づいた良好な景観の維持、育成を図る。</u> <p>Ⅱ 実現のための具体の目標及び都市計画制度の方針</p> <p>⑦ 公園緑地等の整備目標及び配置方針</p> <p>本区域の特徴である緑豊かな田園環境と調和した市街地の形成を目指していることから、市街地<u>及び</u>その周辺に緑豊かな公園・緑地の整備を推進する。また、広域的なレクリエーションの拠点として国営アルプスあづみの公園（大町・松川地区）の<u>未整備エリアの整備及び開園エリアの利用を促進</u>する。</p> <p>④ 緑地保全地区等の指定目標及び指定方針</p> <p>本区域の森林等のうち水源<u>かん養</u>、山地災害防止等の面で保全が必要</p>	<p>Ⅰ 景観構成系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広がりのある水田とそこに散在する屋敷林が創り出す、安曇野を特徴付ける田園景観、農地内を流れる河川とその河畔林が創り出す緑の帯、山麓部に広がる里山環境など、水と緑の豊かな景観の保全を図る。 ・ 社寺林や遺跡を取り巻く緑、巨樹や巨木林など、地域の歴史ある景観を形成する緑の保全に努める。また、遺跡や巨木を中心に公園の整備や周辺の緑化等を推進し、より良い景観の形成を図る。 ・ 市街地では、沿道、<u>生垣</u>などの緑化によってうるおいのある都市景観の形成を目指す。 <p>Ⅲ 実現のための具体の目標及び都市計画制度の方針</p> <p>ア 公園緑地等の整備目標及び配置方針</p> <p>本区域の特徴である緑豊かな田園環境と調和した市街地の形成を目指していることから、市街地およびその周辺に緑豊かな公園・緑地の整備を推進する。また、広域的なレクリエーションの拠点として国営アルプスあづみの公園（大町・松川地区）の整備を推進する。</p> <p>イ 緑地保全地区等の指定目標及び指定方針</p> <p>本区域の森林等のうち水源涵養、山地災害防止等の面で保全が必要</p>

旧	新
<p>区域は、保安林等に指定されており、また、森林における大規模な開発等の動向も近年はないことから、風致地区や緑地保全地区の指定は行わず、当面はこれまでの規制による効果や課題を検証しつつ、良好な環境の保全に努める。</p> <p><u>ウ. その他</u></p> <p>地区による景観形成住民協定の締結、<u>松川村による屋外広告物規制区域や景観形成重点地区の指定</u>、県による景観形成重点地区や屋外広告物禁止地域の指定がされており、北アルプスや農地などの<u>つくりだす</u>緑豊かな景観の保全に努めている。今後もこれらの制度の指定を継続し、良好な景観の保全とそれにと<u>もなう</u>緑の保全や創出を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 長野県景観条例による景観形成住民協定地 <ul style="list-style-type: none"> ・池田町相道寺地区（花菖蒲と陶芸の里） ・池田町花見地区（花とホテルの里） ・池田町半在家地区（花とアルプス一望の里） ・松川村川西区（川西景観形成住民協定） ○ <u>屋外広告物規制区域（一般県道有明大町線沿い）</u> ○ <u>景観形成重点地域（一般国道 147 号の沿道両側 30m、一般県道上生坂信濃松川停車場線の一部）</u> ○ 屋外広告物禁止区域（北アルプスパノラマロードの 300m 区間） ○ 松川村むらづくり条例にもとづく<u>むらづくり</u>推進地区の指定 	<p>な区域は、保安林等に指定されており、また、森林における大規模な開発等の動向も近年はないことから、風致地区や緑地保全地区の指定は行わず、当面はこれまでの規制による効果や課題を検証しつつ、良好な環境の保全に努める。</p> <p><u>(ウ) その他</u></p> <p>地区による景観形成住民協定の締結、県による景観形成重点地区や屋外広告物禁止地域の指定がされており、北アルプスや農地などの<u>創り出す</u>緑豊かな景観の保全に努めている。今後も、良好な景観の保全とそれに<u>伴う</u>緑の保全や創出を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 長野県景観条例による景観形成住民協定地<u>区</u> <ul style="list-style-type: none"> ・池田町相道寺地区（花菖蒲と陶芸の里） ・池田町花見地区（花とホテルの里） ・池田町半在家地区（花とアルプス一望の里） ・<u>池田町坂下地区（坂下地区自然と景観を守る）</u> ・松川村川西区（川西<u>地区</u>景観形成住民協定） ○ <u>景観形成重点地域（一般国道 147 号の沿道両側 30m、）</u> ○ 屋外広告物禁止<u>地域（一般県道有明大町線（通称：北アルプスパノラマロード）の沿道両側 300m 区間）</u> ○ 松川村むらづくり条例に<u>基づく</u>むらづくり推進地区の指定

都市計画区域マスタープラン付図 (池田都市計画区域)



都市施設整備方針図 (池田都市計画区域)



【都市計画の策定の経緯の概要】

池田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（長野県決定）

事 項	時 期	備 考
地元説明	平成26年5月23日（金） 平成26年5月27日（火）	
公聴会のための素案の閲覧	平成26年7月8日（火）から 平成26年8月1日（金）まで	
公聴会 （都市計画法第16条第1項）	平成26年8月3日（日）	公述申出なしにつき 中止
都市計画審議会調査審議	平成26年9月4日（木）	
関東地方整備局長事前協議	平成26年10月10日（金）	
関東地方整備局長事前協議回答	平成26年10月17日（金）	
市町村意見聴取 （都市計画法第18条第1項）	平成26年10月22日（水）	
市町村意見聴取回答	平成26年11月6日（木）	
計画案の公告 （都市計画法第17条第1項）	平成26年12月1日（月）	
計画案の縦覧 （都市計画法第17条第1項）	平成26年12月1日（月）から 平成26年12月15日（月）まで	意見書の提出なし
関東地方整備局長事前協議	平成27年7月29日（水）	
関東地方整備局長事前協議回答	平成27年8月18日（火）	
市町村意見聴取 （都市計画法第18条第1項）	平成27年9月9日（水）	
市町村意見聴取回答	平成27年9月17日（木）	

<p>計画案の公告 （都市計画法第17 条第 1 項）</p> <p>計画案の縦覧 （都市計画法第17 条第 1 項）</p> <p>長野県都市計画審議会 （都市計画法第18 条第 1 項）</p> <p>国土交通大臣本協議 （都市計画法第18 条第 3 項）</p> <p>国土交通大臣本協議回答</p> <p>決定告示 （都市計画法第 20 条第 1 項）</p>	<p>平成27年11月30日（月）</p> <p>平成27年12月 1 日（火）</p> <p>平成27年12月15日（火）</p> <p>平成28年 2 月 2 日（火）</p> <p>平成28年 2 月中旬</p> <p>平成28年 3 月中旬</p> <p>平成28年 3 月下旬</p>	<p>都市計画案変更のため 再縦覧 意見書の提出なし</p> <p>（以下、予定）</p>
--	---	---

池田都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（案）の変更箇所について
（長野県神城断層地震に伴う見直し）

計画書 ページ	項目	計画案の縦覧の際の変更案 （縦覧期間：平成26年12月1日～12月5日）	見直し後の変更案
4	キ 性 災害の危険 （自然災害）	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4行目から6行目 <u>平成26年11月には、糸魚川―静岡構造線活断層系の一部である神城断層の一部とその北方延長が活動したと考えられる「長野県神城断層地震」が発生し、県内で最大震度6弱を観測した。この地震により、圏域内の建築物341棟が全半壊するなど住宅を中心とした建築物とともに、道路やライフラインなどの公共土木施設にも大規模な被害が生じた。</u>
6	ア 市街地	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4項目目 追加 <u>○ 老朽木造住宅など建築物の耐震化</u>
6	ウ 農村集落	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3項目目 ○ 災害時における中山間地の危険 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3項目目 ○ 災害時における中山間地の危険、<u>老朽木造住宅など建築物の耐震化</u>
8	方針1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7項目目 ○ 大規模災害に備えた災害に強いまちづくりを推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7項目目 ○ <u>建築物の耐震化など</u>、大規模災害に備えた災害に強いまちづくりを推進する
9	方針6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1項目目 ○ 安全性、環境面、防災に配慮した幹線道路や大都市、圏域外との交流ルートの機能を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1項目目 ○ 安全性、環境面、防災に配慮した幹線道路や大都市、圏域外との交流ルートの機能を強化する ・ 2項目目 追加 <u>○ 災害時の代替交通機能の確保を図る</u>
10	(2) 圏域の将来都市構造	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7行目から8行目 <u>また、都市施設の整備にあたっては、糸魚川―静岡構造線活断層帯の情報を考慮したうえで、施設の配置や構造等を検討する。</u>

10	ア 拠点	—	<ul style="list-style-type: none"> 1 項目目 追加 ○ <u>市街地・既存の集落</u> <u>既存市街地、既存集落への集約を図るとともに、自然災害による被害の抑止、軽減を図り、災害に強いまちづくりを進めるため、避難路となる道路や一時避難所となる公園等の公共施設の整備を進めるとともに、住宅や避難施設、多数の者が使用する建築物等の耐震化を図る。</u>
10	イ 連携軸	<ul style="list-style-type: none"> 1 項目目 ○ 主要幹線軸 市街地の活性化、圏域内の生活の利便性の向上、商業、観光等の産業の発展及び災害や救急医療等非常時における<u>緊急輸送路の確保等に配慮した道路ネットワークの形成を図るため、</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 1 項目目 ○ 主要幹線軸 市街地の活性化、圏域内の生活の利便性の向上、商業、観光等の産業の発展及び災害や救急医療等非常時における<u>緊急輸送路の確保等に配慮した道路ネットワークの形成を図るため、</u>
12	ウ 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 3 項目目 ○ 適正な土地利用の推進 自然環境や田園の保全とのバランスを保つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 3 項目目 ○ 適正な土地利用の推進 自然環境や田園の保全とのバランスを保つとともに、<u>道路や公園等のオープンスペースの整備、建物の更新にあわせ耐震化・不燃化を促進し、防災性の高い土地利用を推進する。</u>
14	【松川地域】③	<ul style="list-style-type: none"> 4 行目 これまでの生活環境保全との調和を図り、住民が安心して快適に暮らせる公園や道路などの都市施設、地域の活性化や生活環境の向上に資する基盤整備を一層進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 行目 これまでの生活環境保全との調和を図り、住民が安心して快適に暮らせる公園や道路などの都市施設、地域の活性化、<u>防災機能</u>や生活環境の向上に資する基盤整備を一層進める。
21	(イ) 居住環境の改善又は維持に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> 3 行目 このような区域では道路や下水道、公園等の都市施設の整備を進め、利便性、快適性の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 3 行目 このような区域では道路や下水道、公園等の都市施設の整備とともに<u>木造老朽住宅をはじめとする建築物等の耐震化を進め、防災性、利便性、快適性の向上に努める。</u>
23	(カ) 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針	—	<ul style="list-style-type: none"> 3 行目から4 行目 また、地震時における<u>建築物の倒壊による道路閉塞を防止し、円滑な避難、救急・消防活動の実施、緊急物資の輸送を確保するため、緊急輸送路沿道の建築物の耐震化を進める。</u>

23	1) 交通体系の整備の方針	<p>—</p> <p>・ 11行目 圏域全体の観光利用の促進、産業の発展などを見据え、</p>	<p>・ 1行目から4行目 本区域には「糸魚川－静岡構造線」があり、大規模な地震災害が起こる可能性のある地理的条件下にある。このため、災害時において、主要幹線道路は広域的な避難路や緊急輸送路として、幹線道路やその他の道路は地域での避難路や延焼遮断帯としての役割を考慮したうえで、地域の防災性を高める道路網の整備を図る。</p> <p>・ 11行目 圏域全体の観光利用の促進、<u>救急医療</u>や産業の発展などを見据え、</p>
23	(イ) 主要な施設の配置の方針 【主要幹線道路】	<p>・ 1行目 都市間を結ぶ広域的な道路としての機能強化を図ること を基本とし、大北圏域の南側からの玄関口として、圏域全体の交通体系に関わる南北軸の道路の強化を推進する。</p>	<p>・ 1行目 都市間を結ぶ広域的な道路<u>及び災害時の避難路や緊急輸送路</u>としての機能強化を図ることを基本とし、大北圏域の南側からの玄関口として、圏域全体の交通体系に関わる南北軸の道路の強化を推進する。</p>
25	1) 下水道及び河川の整備の方針 【河川】	<p>・ 2行目 一級河川高瀬川中流域に位置する区域として、上流域の状況、地域社会と河川との関わりに留意した<u>治水</u>対策を進める。</p>	<p>・ 2行目 一級河川高瀬川中流域に位置する区域として、上流域の状況、地域社会と河川との関わりに留意し、<u>ハード・ソフト対策が一体となった防災・減災</u>対策を進める。</p>
25	2) 整備水準の目標 (イ) 主要な施設	<p>・ 1行目 池田町及び松川村の地域防災計画に記載されている重要防水区域を中心に、<u>既存河川</u>の河川改修を行う。</p>	<p>・ 1行目 池田町及び松川村の地域防災計画に記載されている重要防水区域を中心に、河川改修を行う。</p>